地方独立行政法人岡山市立総合医療センター
中期目標期間における業務実績見込報告書

第2期（平成30年4月1日～令和4年3月31日）

令和3年6月
地方独立行政法人岡山市立総合医療センター

目 次

1. 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの概要 . . . 1 頁
2. 第 2 期中期目標期間の総括（取組概要） 5 頁
3. 大項目別の業務実績と法人自己評価 7 頁
4. 小項目別の取組実績 2 5 頁
5. 予算，収支計画及び資金計画における決算状況 9 1 頁
6. 主な目標値の達成状況 9 4 頁

1. 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの概要

(1) 法人名

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター

(2) 本部の所在地

岡山市北区北長瀬表町三丁目 20 番 1 号

(3) 役員状況（平成 30 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日）

役職名	氏名	備考
理事長	松本 健五	岡山市立市民病院長兼務
常務理事	片山 伸二	法人本部長兼務 法人本部事務局長兼務
理事	金澤 右	岡山大学理事 岡山大学病院長
	東 良平	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター名誉院長
	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	岡山県公安委員
	正野 隆士	
	平成 31 年 4 月 1 日～	岡山商工会議所専務理事 岡山県商工会議所連合会専務理事
	高橋 邦彰	
	今城 健二	岡山市立市民病院副院長兼務
	平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日	岡山市立市民病院副院長兼務
	小野 まさ子	
	平成 31 年 4 月 1 日～	岡山市立市民病院副院長兼務
臼井 正明		
監事	吉沢 徹	弁護士
	大倉 宏治	公認会計士・税理士

(4) 運営する病院

病院名	所在地	病床数
岡山市立 市民病院	岡山市北区 北長瀬表町三丁目 20 番 1 号	400 床
		・ 一般病床 387 床
		・ 結核病床 7 床 ・ 感染症病床 6 床
岡山市立 せのお病院	岡山市南区 妹尾 850 番地	平成 30 年 4 月 1 日～4 月 30 日
		60 床
		・ 一般病床 8 床 ・ 地域包括ケア病床 52 床
		平成 30 年 5 月 1 日～
		・ 一般病床 — ・ 地域包括ケア病床 60 床

(5) 職員数（各年度 4 月 1 日現在の状況）

区分	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
特別職	2 人	2 人	2 人
正規職員	713 人	707 人	707 人
嘱託職員	37 人	40 人	44 人
再雇用職員	8 人	14 人	17 人
非正規職員	275 人	304 人	307 人
計	1,035 人	1,067 人	1,077 人

※岡山市からの派遣職員を含む

※職員を兼ねる役員を含む

(6) 入院及び外来患者数（各年度末における延べ患者数）

①入院患者数

病院名	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
岡山市立市民病院	138,948 人	137,338 人	106,345 人
岡山市立せのお病院	18,066 人	19,426 人	19,000 人

②外来患者数

病院名	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
岡山市立市民病院	149,459 人	155,505 人	121,112 人
岡山市立せのお病院	16,884 人	16,495 人	13,003 人

(7) 基本的な目標等

地方独立行政法人岡山市立総合医療センターは、岡山市の医療政策として求められる救急医療、感染症医療、災害時における医療及び高度医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、岡山市内における医療水準の向上を図り、もって市民の生命と健康を守ることを目的とし、市民に必要とされる医療を確実に実施する。

また、柔軟で迅速な人材確保など、機動性・弾力性が高く、自律的な経営を実践するとともに、市民へのより良い医療の提供と、より効果的・効率的な病院運営を行い、地域医療の推進のための重要な役割を担うことにより、岡山市長から指示された中期目標を達成する。

(8) 基本理念

心技体

- ・心の通い合う医療の提供
- ・質の高い安全な医療の提供
- ・健全で自立した経営と働きやすい職場

(9) 基本方針

【岡山市立市民病院】

私たちは、市民に信頼され、期待される病院であり続けるために、次のことを実践します。

1. 患者中心の医療

患者に対し十分な説明と同意のもとに医療を提供し、かつ、診療情報を積極的に公開し、患者の尊厳・権利を尊重する患者中心の全人的医療を行います。

2. 医療水準の向上

総合的医療機能を基盤に、高度・特殊・先駆的医療等を担い、さらに地域医療を担う医師の育成、医療従事者の研修の場としての役割を果たし、地域の医療水準の向上に努めます。

3. 安全な医療

患者に安心と信頼をもたらす医療を提供し、また、職員に希望と誇りを育み、充実して働きやすい職場環境を推進します。

4. 地域医療への貢献

地域の医療機関との連携を密にし、また、救急医療を積極的に推進し、市民に愛され信頼される地域の中核病院としての役割を果たします。

5. 健全経営の確保

自治体病院に期待される健康危機管理機能の強化等の公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努めることにより、健全で自立した経営基盤を確立します。

【岡山市立せのお病院】

- ・医療を受ける人の立場に立ち、心のこもった医療を実践します。
- ・患者の権利を尊重し、満足のいく医療を行います。
- ・健全な病院経営に努め、良質な医療サービスを提供します。
- ・保健、福祉、医療の連携のもとに、安心して生活できる地域づくりを推進します。
- ・職員の医療人としての資質の向上に努めます。

2. 第2期中期目標期間の取組概要

はじめに、第2期中期目標期間中に世界規模で発生した新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という）が、当法人の中期計画実施に多大な影響を与えたことが大きな特徴となっている。具体的には、当法人への新型コロナの影響は、令和2年度から顕著となり、新型コロナ患者への対応や感染対策のための設備、医療機械等の調達、また、集合研修や公開講座等の制限、入院患者の受入病床の増加による一般患者の受入制限等、収支にも多大の影響を及ぼした。

第1期中期目標期間に引き続き運営基盤の強化のため、患者に直接関連する業務を総括的に管理・調整する部門として「入退院支援管理センター」を新設し、業務効率と部署間連を強化した。病床管理においてはポータルサイト等を利用して常に情報を共有し、全職員が稼働率を意識できるようにした。

法人本部に経営推進室を新たに設置し、人事課と財務課を市民病院から本部所属とし、法人全体における課題を組織として検討・対応できるよう本部機能を強化した。

新型コロナには法人組織全体で対応するため、対策本部を設置し、実働組織として多職種によるコロナ現場対応検討チームを結成した。さらにチーム内に役割ごとの部会を設け、個別課題にも即時に対応できるようにした。

市民病院においては、当期間前半は救急患者数や救急車応需率の目標を達成していたが、令和2年度以降の後半ではコロナ禍の影響を大きく受けベッドコントロールにより極力患者受け入れを行えるように努めたにもかかわらず目標を達成できなかった。しかし第二種感染症指定病院として、また、新型コロナ重点医療機関として新型コロナ患者の受け入れやマスクミを通じて市民への啓発も実施し、責務を果たした。さらに毎週定期開催するWeb会議により、岡山県や保健所、他医療機関との連携や情報交換を行った。

そうした厳しい中ではあったが、高度専門医療についてはこれまでの水準を維持するように努めた。

せのお病院においては、高度専門医療を行っている急性期病院の後方支援の役割を果たすため、平成30年5月から全床を地域包括ケア病床とした。さらに災害対策として業務継続計画（BCP）の策定や訓練の実施、老朽化した設備の改修等を行った。

医療の質の向上については、各種会議や研修を実施しており、コロナ禍においてもeラーニングなどを活用し啓発を行ってきた。特にコロナ禍においては、情報共有や厚生労働省からの通知を基に多くのマニュアルを整備し、院内感染の発生を防いだ。またその感染対策のノウハウをもとに近隣病院に対しての指導も実施した。

教育の質の向上については、新型コロナの影響でリモートによる研修も実施したが、予定回数を下回った。

第3期中期目標期間に導入予定の新電子カルテシステムについては、計画通り準備を進めている。治験・臨床試験等については、新型コロナの影響で中止となった治験が増えたが、新型コロナに関

する治験は増加しており、受託能力はアップしている。

患者サービスの向上については、患者満足度も目標並みになっている。

地域医療連携については紹介率・逆紹介率等は目標値を上回っており、コロナ禍においてカンファレンスや研修会等の回数は減っているが、オンライン形式で行うなど積極的に情報通信技術（ICT）を活用し、地域医療支援病院としての役割を果たしている。

研修医は100%受け入れ、救急救命士の実習も依頼のあったものは100%受け入れており、研修医や救急救命士のスキルアップに貢献した。

人材については、初期研修のマッチングはフルマッチを続けており、看護師についても常時募集定員以上の応募がある。臨床研修指導医は安定して目標人数を上回っており、認定看護師についても奨学金制度の新設などにより着実に増えている。

また、医師の働き方改革については、勤務時間の短縮や宿日直体制の整備など体制づくりを進めている。

院内保育では、一時保育利用が増えてきた。定員を超える場合には周辺保育施設と連携し、子育て支援できるように図った。

第3期中期目標期間（令和4年度～令和7年度）に向けては、これまで整備、充実してきた組織や医療機能等を継承した上で、さらなる飛躍を目指すため、地方独立行政法人制度の特長である自律性、機動性及び弾力性を発揮し、より良い医療の提供と、より効果的、効率的な病院運営の実現を目指していく。

3. 大項目別の業務実績と法人自己評価

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

法人自己評価	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況となる見込み
	4 中期目標を達成する見込み
	3 中期目標を概ね達成する見込み
	2 中期目標を十分に達成できない見込み
	1 中期目標を大幅に下回る見込み

内容及び判断にあたって考慮した事由

(1) 業務実績

令和2年度は救急患者数、救急車応需率共に目標値に未達であり、その理由の大半は新型コロナウイルスの蔓延によるものであった。中期計画終了時の業績結果は令和3年度の実績によると考えるが、これも新型コロナウイルスの蔓延による影響を受けると推測する。令和3年度中にコロナ禍がある程度の収束傾向となれば、救急医療の再構築を行い、目標値を達成する予定である。

二類感染症の受入体制については、結核排菌患者の受入れを含めて24時間365日堅持できた。岡山県からの依頼による感染症移送ネットワークに係る感染症対策にも対応した。また、備前保健所健康危機管理対策地域連絡会議や岡山市感染症診査協議会、大都市感染症指定医療機関病院長・事務長会議、岡山県新型インフルエンザ等対策訓練に継続して参加し、第二種感染症指定病院として責務を果たした。令和2年2月1日に政令で二類感染症に指定された新型コロナウイルスについては、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応して院内体制を構築し、県内発生に対応した。また、新型コロナウイルスの重点医療機関の指定を受け、受入れのための設備工事、検査機器の整備、体制の構築等を行い、行政の要請に対応し受入病床の増床と県下最大数の陽性患者を受け入れた。

なお、災害医療については、新型コロナウイルスという緊急事態に迅速かつ適切な医療提供のできる拠点機能を確保し、新型コロナウイルスの重点医療機関の指定を受けた。

災害派遣医療チーム（DMAT）については、隊員の継続的な訓練、新規DMAT隊員の養成を行った。また、職員のスキルアップを図るため、多数傷病者への医療対応標準化トレーニングコース（MCLS）などの災害医療研修にも積極的に参加した。市民病院における事業継続計画（BCP）に基づいた訓練を行った。災害医療救護訓練や災害対応訓練エマルゴを用いた訓練も行った。さらに、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄などの維持管理を行った。しかし、中期目標期間後半では、新型コロナウイルス拡大に伴い当院で開催予定であった岡山県災害拠点病院医療救護要員研修会は中止となり、DMAT隊員の養成、災害医療研修等も中止となった。

小児医療については、小児科常勤医師3名の体制を維持し、一般小児医療とともに主として

アレルギー診療を通じて周辺医療機関との連携をするとともに、地域医療に貢献することができている。さらに、小児の重症疾患、病的新生児等においては高次医療機関へ紹介・搬送を行い適切な連携による対応ができている。また、産科医師を増員し、分娩時も複数医師により安全に出産ができるようになった。ハイリスク妊婦の対応については、高度医療機関との連携が強化され、母体搬送や急性期後の逆紹介等がスムーズに行なわれた。

医師による妊婦健診後に、助産師が行う妊婦指導は、全妊婦を対象にし、医療面・経済面・生活面等あらゆる方面の問題点を抽出して対応をすることで、より安全安心な出産・育児に貢献した。産後ケア入院は正常分娩後の肉体疲労や育児不安等を解消する目的で開始し、患者の産後の不安を解消することができた。

セーフティネット機能を果たすため、社会的困窮者の受入れについては、常時対応できるよう医療ソーシャルワーカーを配置し、救急や感染症について常時対応できるよう救急医などの医師の確保も行った。救急医療については、「断らない救急」の実践のため、救急疾患の短期入院、ERから直接他院へ転院する仕組みなどを実践したが、新型コロナ対応に伴う病棟閉鎖による病床満床や複数の救急患者対応などで救急の受入制限も生じた。感染症については、新型コロナの影響により、診療規模の縮小や救急受入制限を余儀なくされたが、病棟の陰圧化や重症病床の整備等のハード面の感染症対策の強化や、スタッフの研修を行うなどの対策を講じた。

高度医療について、がん診療連携推進病院として、がん患者の入院数は新型コロナの影響による病床数の削減等のため、令和2年度の減少を除き横ばいとなっている。診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行うため、手術療法、化学療法を中心とした集学的治療を提供し、更に高度専門的な治療が必要な患者に対しては、地域の高度専門医療機関と連携して診療を行った。特に歯科との連携やがん緩和ケアについての充実を図った。また、がん治療サポートセンターと入退院管理支援センターとの連携やがん患者のリハビリテーションによる退院後の支援も充実させた。更に市民に対しては公開講座などにより、がんに対する啓発を行った。

脳卒中では、当院は令和2年度に岡山県南東部における一次脳卒中センターコア施設としての活動を委嘱された。しかし、新型コロナの重点医療機関である当院は、令和2年度には病床数の削減や頻繁な救急受入停止が生じ、脳卒中分野の入院患者数、手術件数が減少している。感染収束後には県南東部医療圏における脳卒中診療の中心的役割を果たし、患者数が大幅に増加することが見込まれる。

急性心筋梗塞では、緊急カテーテル検査や治療については、循環器学会が定めたガイドラインに沿い、ほぼ来院から90分以内に緊急冠動脈形成術の治療ができ、質の高い治療を実施した。外科的治療（冠動脈バイパス手術等）が必要な患者については、地域の心臓血管外科のある病院と迅速に連携し、転送して治療を行った。すべてに遅滞なく対応し、質の高い治療を実施した。急性期治療が終了した患者については、合併症の予防と早期退院を進めるため、多職種による包括的心臓リハビリテーションを実施した。

糖尿病では、新型コロナの重症化因子として高血糖及び肥満があり、新型コロナの重症化予防のため、血糖及び体重のコントロールが極めて重要となった。また、多くの患者が新型コロナに対する不安を抱えるようになった。この状況に対して、地域の病院・診療所訪問で培った他の医療機関とのこれまでの信頼関係を維持し、連携して高度な糖尿病治療を外来、入院ともに継続し実施した。臨床心理士を含む多職種チーム医療により不安を抱える患者への心理的支援も行った。

医療事故の予防及び再発防止対策については、多職種連携で医療安全に関する会議や委員会を定期的で開催し、インシデント、アクシデントに関する情報を速やかに収集及び分析し、再発防止に取り組み、全職員の医療安全に関わる知識の向上に努め、患者が安心して医療を受けることのできる環境を整備した。医療安全研修については、新型コロナの影響により、当面の間、集合研修は困難であり、eラーニングなどを使いながら医療事故の予防及び再発防止に病院全体で取り組んでいく。

院内感染対策については、院内感染対策委員会の毎月開催や院内感染管理システムを利用し、耐性菌キャリアを含むサーベイランスの強化を継続した。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）による抗菌薬使用状況の確認など、耐性菌の発生を最低限に抑制した。また、継続して他施設と相互に訪問評価を実施した。職員の知識の向上を図るため、院内感染に関する研修会を実施した。

感染症に罹患した職員の出勤停止期間や自宅療養期間の管理を継続して行った。インフェクションコントロールチーム（ICT）による週1回の院内ラウンドを継続して行い、血液培養陽性者に対する支援を365日体制で行った。多剤耐性菌であるMRSA（メチシリン耐性ブドウ球菌）、MDRP（多剤耐性緑膿菌）、ESBL（基質特異性拡張型ベータラクタマーゼ）産生菌、CRE（カルバペネム耐性腸球菌）等の持込に対するスクリーニングの強化と持込患者をベッドコントロールにより適正に管理したことで、アウトブレイクを起こすこともなく院内感染を減少させた。

新型コロナ対策については、岡山市保健所及び岡山県の連絡を緊密に行い、また、厚生労働省からの通知により迅速に受入体制を構築した。また、職員の健康管理や入院・外来患者の管理を徹底し、依頼のあったすべての疑似症例患者や確定患者を受け入れた。なおかつ、中期目標期間中の発生後から令和2年度末まで院内感染の発生や職員の感染はなかった。このことは、近隣病院から感染対策のモデルとして評価され、感染対策の指導も行った。

個人情報保護については、新型コロナの影響で集合研修ができない場合は代替手段により実施した。また、マニュアルを必要に応じて見直し、院内ポータルサイトに掲載し周知した。

総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進については、従来の新採用者研修に加え、人材開発センターで一元管理し、中途入職者、育児休業復帰者合同研修を実施した。業務面では、病棟カンファレンスの充実や、栄養サポートチーム（NST）研修会、救急搬送事例検討会など多

職種での研修会を開催し、各科専門領域における救急・総合診療の充実、チーム医療と他部門間の連携を強化した。令和元年度には目標が達成可能なレベルに到達したが、令和2年度は新型コロナの蔓延により対面型の研修やカンファレンスが困難となり、IT技術を応用したリモート型の研修やカンファレンスを導入したが、令和元年度の実施回数には至らなかった。

医療の質や患者サービスの向上のための情報共有については、総合情報システムの機器更新、電子カルテシステムの更新に着手した。総合情報システムでは、病院間の回線の変更、インターネット接続方法の変更、ネットワーク機器の計画的な更新をし、通信環境の改善を図り、安定した通信環境の構築を行った。情報共有のため構築されたポータルサイトは、掲載情報や掲載方法を見直し、日々の経営状況や新型コロナに対する診療方針や職員の行動制限など、重要な情報を全職員にタイムリーに伝達できた。第3期中期目標期間中の更新に向け準備した電子カルテシステムは現行システムの安定稼働に努め、通信環境の改善となるよう総合情報システムを更新し、患者サービスの向上や医療現場の効率化のために、非接触での問診システム、AIシステムの導入を行った。

クリニカルパスについては、種類数、使用率は年々上昇した。クリニカルパス大会については、新型コロナの影響を受け開催が制限されたが、オンライン開催も含め院内のみならず、院外向けにもクリニカルパス大会を行ない、知見を共有した。クリニカルパスの使用方法について院内の勉強会を行い、随時適正使用できるように努めた。また作成したパスについて、令和2年度から入退院管理支援センターが主導で各関係職種の視点から見直しを実施し、改訂を行っている。クリニカルパスに対する院内の諸問題について、毎月パスチームにて会議を行ない、改善を行なった。

治験・臨床試験・販売後調査については、順調に増加していたが、新型コロナ蔓延に伴い中止された治験が多数あり、販売後調査や臨床研究は新規案件が減少傾向になり、案件数では低調になった。一方、新型コロナ関連の治験は増加し、受託案件については順調に症例登録が進んでおり、受託能力についてはレベルアップしている。

インフォームドコンセントについては、電子カルテシステム内の治療計画、手術同意書などの書式を整備し、引き続き患者への確実な履行に努めた。セカンドオピニオン外来については、患者の希望により他院へつなぎ、また、他院からの患者も受け入れた。医療相談窓口としては、相談窓口を設け、週に1度、医療安全管理者も含めた多職種によるカンファレンスで検討し、その内容を各部署へ周知した。

薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法については、いずれの年度においても目標を達成した。また、チーム医療の向上における病棟薬剤業務の充実では、ICUを含む9病棟に加えてHCUへ薬剤師の配置を行った。注射薬の個人セットでは、薬剤部での24時間対応としたことで、質及び安全面がさらに向上できた。

各種栄養指導については、新型コロナ陽性患者の診療や予防対策の影響で患者数が減少したため、目標の件数を達成できない可能性が高い。しかしながら、必要な患者へは感染対策を十分にを行い、栄養指導を行い、多職種チームで食事療法をサポートした。入院患者食事相談については、食事サービスの向上のため、管理栄養士及び調理師等が協働で実施しており、年々件数を伸ばすことができている。

患者ニーズの把握及び改善については、新型コロナ拡大により入院・外来ともに患者数が減少し、特に入院患者の患者満足度調査件数が大きく減少した。特に入院については、患者や家族に行動制限をかけていることもあり、調査方法の検討が必要である。退院支援については、地域包括支援センターや地域の介護サービス関係者との情報共有を密に行い、円滑な在宅生活への移行と、安心して暮らせる環境づくりの支援を行った。

係争中の紛争については、早期決着を顧問弁護士と協議・相談しながら目指した。日々発生するクレームの対応は、引き続き専門職員による迅速な対応をした。

接遇については、教育・研修委員会を中心に接遇に関する全体研修やワークショップを実施し、意識向上に努めた。新型コロナの影響もある中、Web開催の研修も導入し、全職員の研修参加を目指している。

広報については、広報誌やホームページ、フェイスブック、院内掲示を利用した定常的な広報活動に加え、市民を対象に各種イベントや市民公開講座、患者向け教室を開催し、コミュニケーションをとりながら健康情報に触れていただける機会を増やした。また、信頼のおけるメディアからの情報発信の増加をテーマに、新聞からの情報発信を活性化させた。更に、市民病院・せのお病院のホームページをリニューアルし、デザイン性や機能性も向上させた。新型コロナの影響で市民向けイベントや教室は実施できなくなったが、感染拡大防止の目的で各メディアからの取材要請が急増し、可能な限り協力をすることで、市民への感染防止対策の重要性の伝達に貢献した。

地域医療連携については、新型コロナ拡大の影響を受け、令和2年度から紹介件数等が減少し、在宅医療の推進の取り組みである退院前カンファレンス等の開催件数も減少した。そのため、情報通信技術（ICT）を活用したオンライン形式による、カンファレンスや研修会等の利用を促進した。引き続きICTを活用した研修会等を積極的に実施し、地域医療支援病院としての役割を果たしていく。

地域医療を担う医師の人材育成については、研修医の受入れは、100%（目標値：100%）対応した。救急救命士の実習については、依頼された実習を100%受け入れ、救急救命士のスキルアップに貢献した。指導医教育にも取り組み、臨床研修指導医は退職等の異動はあったが常に目標値は超えており、令和2年度末には51名であった。

組織体制として整備した人材開発センターでは、新人採用から管理職まで階層別にキャリアに応じた研修プログラムを計画し実施した。また、研修後に振り返りの評価も行い、翌年度以降に反映させる運用を開始した。

保健福祉行政への協力については、地域ケア総合推進センターとカンファレンスが、新型コロナウイルスの影響下において、より一層連携を図る必要性が高まり、具体的な協働について相談を開始し共催で研修会を実施することができた。

今後も、定例の会議や事業を通して、必要があれば個々のケースについて相談・連携ができる体制づくりを進めていく。

(2) 見込評価理由

救急患者数、救急車応需率共に目標値に未達であるが、その理由の大半は新型コロナウイルスの蔓延によるものであり、令和3年度中にコロナ禍がある程度の収束傾向となれば、目標値を達成する予定である。

二類感染症の受入体制については、24時間365日堅持できた。また、継続して備前保健所健康危機管理対策地域連絡会議や岡山市感染症診査協議会、大都市感染症指定医療機関病院長・事務長会議、岡山県新型インフルエンザ等対策訓練に参加し、第二種感染症指定病院としての責務を果たした。更に、新型コロナウイルスについては、重点医療機関の指定を受け、受入れのための設備工事、検査機器の整備、体制の構築等を行い、行政の受入病床の増床要請にも対応し、県下で最も多くの陽性患者を受け入れた。

災害派遣医療チーム（DMAT）については、中期目標期間後半の新型コロナウイルス拡大に伴い、当院で開催予定であった岡山県災害拠点病院医療救護要員研修会が中止となり、DMAT隊員の養成、災害医療研修も中止となったが、市民病院における事業継続計画（BCP）に基づく訓練は行った。災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄などについては、維持管理を行った。

小児医療については、一般小児医療とともに、主としてアレルギー診療を通じて周辺医療機関との連携し、地域医療に貢献することができている。さらに小児の重症疾患、病的新生児等においては高次医療機関である岡山医療センター、岡山赤十字病院、岡山大学病院などへ紹介・搬送を行っており適切に対応した。周産期医療では、産科医師の増により分娩時も複数医師が立ち会える機会が増え、より安全に出産ができるようになった。ハイリスク妊婦の対応については、高度医療機関との連携が強化され、母体搬送や急性期後の逆紹介等がスムーズに行なわれた。助産師が行う妊婦指導は、全妊婦が対象で、医療面・経済面・生活面あらゆる方面の問題点を抽出して対応し、より安全安心な出産・育児に大きく貢献した。

セーフティネット機能を果たすため、社会的困窮者の受入れについて、常時対応できるよう医療ソーシャルワーカーを配置した。救急医療については、「断らない救急」の実践のため、救

急疾患の短期入院、ERから直接他院へ転院する仕組みなどを実践した。

高度医療について、がん診療では、引き続きがん診療連携推進病院として、診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行った。特に歯科との連携を強化し、がん緩和ケアなどの充実を図った。脳卒中では、令和2年度に岡山県南東部における一次脳卒中センターコア施設としての活動を委嘱されており、新型コロナ収束後には県南東部医療圏における脳卒中診療の中心的役割を果たし、患者数が大幅に増加することが見込まれる。急性心筋梗塞、糖尿病においても、高度で専門的な医療の提供を行うことができた。

せのお病院については、患者が安心して住み慣れた地域で暮らし続けることができるように病棟カンファレンスを充実させ、連携している近隣の医療機関や介護施設と退院に関する調整を行った。また、開放病床の設置や高度医療機器の共同利用により、近隣開業医のバックアップ病院としての役割を充実させた。

急性期病院の後方支援の役割を果たすように、平成30年5月には全床を地域包括ケア病床とした。そして、市民病院を含めた近隣の急性期病院には、空床状況をファックスしたり、直接訪問してせのお病院の状況や機能などを病床管理担当者への説明を行ったりして、急性期病院が当院を活用しやすくなるように努めた。また、市民病院と電子カルテを共用することで患者の基本情報や治療経過が共有でき、法人として一体化した医療提供を行うことができた。

院内感染対策については、院内体制を構築し、職員の健康管理や入院・外来患者の管理を徹底し、依頼のあった疑似症例の患者や確定患者をすべて受け入れ、なおかつ、令和2年度は、院内感染の発生を抑制した。このことが、近隣病院から感染対策のモデルとしても評価され、感染対策の指導も行った。

総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進については、人材開発センターで研修を一元管理して実施することで研修体制を強化した。業務面では、病棟カンファレンスの充実、多職種での研修会の開催、各科専門領域診療の強化、救急・総合診療の充実、チーム医療・他部門間の連携強化などの向上に努めた。

医療の質や患者サービスの向上のための情報共有については、患者サービスの向上、医療現場の効率化、環境の改善となるようシステムの更新、導入を行った。

クリニカルパスについては、種類数、使用率については年々上昇している。

治験・臨床試験・販売後調査については、受託案件は順調に症例登録が進んでおり、受託能力についてはレベルアップしている。

患者へのインフォームドコンセントについては、電子カルテシステム内に治療計画、手術同意書などの書式を整備し確実な履行に努めた。

薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法については、いずれの年度においても目標を達成した。各種栄養指導については、多職種チームで、患者の食事療法のサポートを継続した。入院患者食事相談については、当院の管理栄養士、委託業者の栄養士及び調理師が協働で食事

サービスの向上のための相談を実施しており、年々件数を伸ばすことができている。

広報については、急増した新型コロナ拡大防止目的の各メディアからの取材要請に、可能な限り協力をすることで、市民に感染防止対策の重要性の伝達に貢献した。

地域医療連携については、情報通信技術（ICT）を活用したオンライン形式のカンファレンスや研修会等の実施を行った。また、地域医療を担う医師の人材育成については、研修医の100%の受入れ、救急救命士の実習の100%の受入れ、スキルアップに貢献した。

保健医療福祉行政への協力については、地域ケア総合推進センターとカンファレンスが、新型コロナの影響下において、より一層連携を図る必要性が高まり、具体的な協働について相談を開始し共催で研修会を実施することができた。

以上の取組みなどにより、令和元年度までは順調に中期計画を着実に実施してきたが、令和2年度は新型コロナ拡大により計画達成に大きな影響がでた。しかし、新型コロナの影響を除けば、概ね中期計画どおりに実施できているものと考えられる。

（3）課題と改善方策等

○「1(1)ア 市民病院 救急医療・岡山ER」、 「1(1)エ 市民病院 小児・周産期医療」

(H30 課題) ERでの小児救急対応については、スタッフの育成などが図られているところであるが、市域全体で体制整備が課題となっている分野でもあり、引き続き体制強化に向けて取り組んでいただきたい。

(改善方策) 小児科医師がER副センター長を兼任し、スタッフ育成の勉強会等によりERでの小児救急体制を強化した。

(R 元課題) 市民病院の救急医療については、目標を上回る高水準の救急要請応需率となっている。モバイルERの運転手不足等の課題が解消されればさらなる充実が見込まれるため、引き続き人材確保に取り組んでいただきたい。

(実施状況) 令和2年度にモバイルERの運転手を新たに増員し研修会を実施した。しかし、新型コロナの影響でモバイルERを一時停止しており、実際の運転訓練ができていない。

○「1(2)せのお病院」

(H30 課題) 災害時に地域の拠点病院としての役割を果たせるよう、マニュアルの整備、定期的な災害訓練を早急に実施していただく必要がある。

(R 元課題) 災害時に地域の拠点病院としての役割を果たせるよう、定期的な災害訓練を早急に実施していただく必要がある。

(改善方策) 令和元年度に災害時におけるBCP（事業継続計画）を策定し、令和2年度にはBCPに基づく災害訓練を実施した。

○「2(1)ア 医療安全対策」

(H30 課題) 医療安全対策におけるインシデント・アクシデント報告に関する目標値については、客観的に分かりやすい検証が可能となる指標等について再考していただきたい。

(改善方策) 令和元年度において、日本医療安全調査機構が提言する一般的な指標（1ヶ月あたり病床数の2分の1：市民病院では200件/月、2,400件/年）に対する達成率は104.8%となり、指標を達成した。

(R元課題) インシデント・アクシデント報告については、医師からの報告比率が低いことに関し、対策を講じていただきたい。

(実施状況) 令和2年度は医師、研修医からの報告が3.1%と前年度の2.4%を上回ったが、日本医療安全調査機構の指標で全体の8%が目標とされており、引き続き医師からの報告を促すことが課題である。

医師に対しては医局会等で定期的に報告の必要性を説明し、報告を依頼し、更にコメディカル等からの報告の上がった事案についても医師からの報告も必要と判断したものについては個別に依頼している。また、インシデント報告の提出漏れを防ぐように検討している。

○「2(3)イ クリニカルパス」

(H30 課題) クリニカルパスについては、種類数、使用率が目標値を上回った点は高く評価できるが、今後、パスの効果についても検証し、分析結果を報告していただきたい。

(改善方策) パスの効果については、平成30年度中の入院患者で検証を行ったところ、適正な入院期間で退院した患者の割合は、パス適用者の方が有意に高く、パスを適用することは病床管理に貢献していることが分かった。一方、包括点数と医療資源の出来高点数の差においては、パス適用者と非適用者で有意な差がなかったため、今後は経営的な観点からも効果的な医療を実施できるように、パスの見直しを行うこととした。

○「3(1)ア インフォームドコンセント・セカンドオピニオン」

(H30 課題) インフォームドコンセントの実施ができているかを検証するための方策についても検討していただきたい。

(R 元課題) インフォームドコンセントについては、説明した内容が正しく患者に理解されているかといった観点からも実施状況を検証していただきたい。

(改善方策) インフォームドコンセントについては、手術などの重要な説明については、内容が正しく患者に理解され、同意をされた場合には署名をいただき、電子カルテシステムに取り込んでいる。

○「3(1)ウ 患者ニーズの把握等」

(H30 課題) 外来アンケートについては、調査件数を増やすための対応策を講じていただきたい。

(改善方策) 令和元年度においては、調査回数を増やすことで入院、外来共に回答件数を上回った。

(R 元課題) 調査方法の多様化なども検討していただきたい。

(改善方策) 入院に対するアンケートにおいて、従来の意見箱への投函に加え、退院時に職員から直接アンケート用紙を手渡した。

○「3(1)エ 紛争解決」

(R 元課題) 係争中の案件については、円満な解決に努めていただきたい。

(改善方策) 係争中の案件については、円満な解決に努めた。

○「4(2)ア 在宅医療の推進」

(H30 課題) 在宅での生活を希望する患者やその家族の意向を尊重し、退院時の在宅移行支援についての取組を強化していただきたい。

(改善方策) 令和元年度においては、患者や家族が安心して療養できる環境を整えるため、多職種会議・退院前カンファレンスの開催に取り組みを強化し、在宅復帰率は目標値を上回った。。

(R 元課題) MRI の共同利用について、地域の医療機関でのさらなる活用を推進していただきたい。

(改善方策) カルナコネクト（インターネットにより紹介患者のオンライン予約や予約状況の照会を行える患者受信予約システム）の普及活動を行った。

○「6(1) 保健医療福祉行政への協力」

(R 元課題) カンファレンスや研修会等の実施について、必要な会議を開催できるよう遠隔会議等の対策を検討していただきたい。

(改善方策) 情報通信技術（ICT）を用いたオンライン形式によるカンファレンス、会議、

連携研修会の開催を行った。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

法人自己評価	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況となる見込み
	4 中期目標を達成する見込み
	3 中期目標を概ね達成する見込み
	2 中期目標を十分に達成できない見込み
	1 中期目標を大幅に下回る見込み

内容及び判断にあたって考慮した事由

(1) 業務実績

複雑化する患者サービスに横断的かつ効率的に対応するため、入退院管理センターと医事課を統合し、入退院管理支援センターとして発足させたことや、各課・室と事務長間で密接な連携が行えるようにしたことで、業務の効率化と部署間のコミュニケーションの円滑化を図ることができ、効果的かつ統一のある病院運営を行うことができるようになった。

また、法人全体の経営を検討する経営戦略会議の創設や、経営に係るデータ分析・検証等を行い、戦略を考える経営推進室の新設などにより、法人全体における課題を組織で検討し、対応できるようになった。各種会議に関する報告書をポータルサイトに毎会議後に掲載し、病院経営に関する認識や意識を職員間での共有することができた。

人材確保においては、初期研修のマッチングについてはフルマッチを続けている。看護師については、新型コロナの影響もあり、応募者数の減少はあったが、常に募集定員以上の応募があり、安定して採用ができている。その他の職種については、必要に応じて採用しており、計画以上の人材が確保できている。また育児支援制度については、女性職員の取得率100%を維持しているとともに、男性職員の育児休業取得等、活用されている。

外部評価の活用では、監事や会計監査法人による会計監査を続けるとともに、必要に応じた相談・助言、さらに理事会での経営強化に関する助言を受けた。また、令和2年2月には、市民病院で公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を認定され、その評価に基づき、業務改善を進めている。

臨床研修指導医は、安定して目標人数を上回っており、認定看護師については、奨学金制度の新設などにより着実に増加した。

また、新専門医制度が開始された中、当院のプログラムでの専攻医も安定して確保できおり、充実を図っている。内科専門研修で必須となっている内科救急講習会(JMECC)についても、毎年当院で開催できおり、内科専門研修プログラム基幹病院としての役割を十分に果たしている。

人事評価においては、医療組織に即した新人事評価制度の浸透を図るため、職務行動を評価する能力評価に特化して行った結果として、職員の理解も深まり新人事評価制度への移行がスムーズにできた。運用方法については、毎年精査し、効率的に制度が運用されるようマニュアル・様式の改定等を行っている。

職場環境の整備については、医師の勤務時間の短縮や宿日直体制を見直し、働き方改革に向けた体制がある程度整えられた。安全衛生管理室を設置し、職員の安全衛生やハラスメント対策を強化した。看護師の夜勤の平準化については、子育て世代の夜勤可能な職員への協力を求めるなど協力体制を強化した。

院内保育園については、家庭で保育する産休・育休職員の増加や認可保育園への転園等により、利用者数はやや減少傾向にある一方で、一時保育利用は増加しており、職員が業務に専念できるよう、柔軟な利用が可能となるように委託業者と協力し受入れに应运えてきた。また、今後定員を超える場合でも育児休業から職員が安心して職場復帰できるよう、病院周辺の保育施設とも提携し、育児と仕事の両立を支援できる保育環境の整備を行った。

(2) 見込評価理由

業務の拡充や部署間の連携強化により、業務の効率化とコミュニケーションの円滑化を図ることができ、効果的かつ統一のある病院運営を行うことができた。

人材確保については、順調に医師をはじめとした優秀な人材を確保できた。臨床研修指導医は安定して目標を上回っており、認定看護師についても奨学金制度の新設などにより着実に増加しており、また、内科専門研修で必須となっている内科救急講習会（JMECC）についても、当院で継続的に開催ができており、内科専門研修プログラム基幹病院としての役割を十分に果たすことができた。

人事評価においては、病院組織に即した人事評価制度の浸透を図るため、職務行動を評価する能力評価に特化して行ったことで職員の理解も深まり新人事評価制度への移行がスムーズにできた。

職場環境の整備においては、安全衛生管理室を設置し、職員の安全衛生やハラスメント対策を強化した。看護師の夜勤の平準化についても子育て世代の夜勤可能な職員への協力を求め協力体制を強化するなど、計画を順調に実施した。

以上の取組や成果により、令和3年度も計画を着実に実施する見込みであり、新型コロナウイルスの影響次第ではあるが、中期目標の達成に向けて中期計画どおりに実施しているものと考えられる。

(3) 課題と改善方策等

○「1(1) 業務運営体制の構築」

(H30 課題) ワーキングチームの取組については、その成果についても報告書に記載していただきたい。

(改善方策) 報告書に記載するようにした。

○「2(2) 適正な人事評価制度」

(H30 課題) 人事評価制度については、職員への浸透を図った上で定着させていただきたい。

(実施状況) 人事評価制度についての研修を新規採用職員や新たに評価者になった職員を中心に実施した。その結果、人事評価はほぼ100%実施できた。

(R 元課題) 人事評価制度については、業績評価の導入も進めていただきたい。

(実施状況) 新しい人事評価制度の浸透を図り、人事評価制度の効果的な活用方法を業績評価等の実施も含め検討する。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

法人自己評価	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況となる見込み
	4 中期目標を達成する見込み
	3 中期目標を概ね達成する見込み
	2 中期目標を十分に達成できない見込み
	1 中期目標を大幅に下回る見込み

内容及び判断にあたって考慮した事由

(1) 業務実績

経営基盤の確立については、収益を増やし人件費比率等を下げること、令和元年度の単年度黒字を目指したが、新型コロナ等の影響があり、市民病院単体では黒字を達成できなかった。しかし、せのお病院を含めた法人全体では単年度黒字となり、経常収支比率の年度目標を達成した。令和2年度は、ベッドコントロールの改善により平均在院日数が短縮し、年度目標を達成した。その影響もあって、前年度比で入院単価は増加しており、今後はこの単価を維持したうえで患者数を元の水準まで戻すことにより増収を図る。

病床稼働率については、令和2年度に新型コロナ病床確保のため、病床（病棟）閉鎖を行ったこともあり、病床稼働率の大幅な低下によって医業収益が減少した。ただし、入院・外来とも単価は上昇している。

費用については、令和2年度に医業収益が大きく落ち込んだことで給与費比率が上昇し、目標を達成できなかった。病床稼働率の低下により変動費である材料費は減少しているが、別途、契約内容・方法等を見直しすることで更に削減した。経費については、各種感染対策を講じたため増加した。

(2) 見込評価理由

新型コロナの蔓延により、医療を取り巻く環境の変化はめまぐるしく、入院・外来ともに患者数が減少し、厳しい状態が続いているが、ベッドコントロールの改善による平均滞在日を短縮することができた。また、新型コロナ患者の受入れを積極的に行いながら、同時に救急患者の受入れを行えるよう、流動的に病床の運用を行った。

以上の取組や成果により、令和3年度も計画を着実に実施する見込みであり、新型コロナの影響次第ではあるが、中期目標の達成に向けて中期計画どおりに実施しているものと考えられる。

(3) 課題と改善方策等

○「1 持続可能な経営基盤の確立」

(H30 課題) 指標である市立総合医療センターの経常収支比率は目標値を上回ったものの、臨時損失が発生したことにより当年度の赤字幅は前年度より拡大している。第2期中期計画期間中の黒字化を達成するためには、さらに経営の効率化を進めていく必要がある。

(改善方策) 収益を増やすことで人件費率等を下げ、単年度黒字を目指したが新型コロナ等の影響があり、市民病院単体では黒字を達成できなかった。しかし、せのお病院を含めた法人全体では単年度黒字となり、経常収支比率の年度目標を達成した。

(R 元課題) 法人設立後初めて単年度黒字を達成したところであるが、自己資本比率は依然低い水準にあり、引き続き経営基盤の確立に取り組んでいただきたい。

(改善方策) ベッドコントロールの強化により病床を効率的に運用し、平均在院日数を短縮したことで、入院単価の上昇につなげることができた。新型コロナ収束後は平均在院日数を短縮し、新規患者の増加を目指す。

○「2 収入の確保及び費用の節減」

(H30 課題) せのお病院については、医師の退職による影響などもあり、目標値を大きく下回る結果となった。給与費比率については、市民病院では、人員増により診療体制を強化させることで増収を図っているところであるが、前年度と同率となっている。また、せのお病院では、これまでも極めて高い水準であったが、前述の理由によりさらに比率が上昇している。法人全体で最適な人員配置による給与費比率の改善を図っていく必要がある。

(改善方策) 増収に向けて、近隣の病院・診療所を医師も同行して職員が訪問すること等により、市民病院の外来収益は11.4%増となった。費用についても市民病院とせのお病院で同種の契約を一本化するなど、契約内容・契約方法の見直しを行い、経費を節減した。せのお病院においては、より有利な病棟入院料の算定が可能になったことや、病床稼働率の向上により医業収益は約8.8%増加した。費用についても、給与費や経費の削減により全体を減少させた。その結果、経常収支比率、医業収支比率及び給与費比率のいずれも目標値を達成し、経常利益も大幅に増加した。

第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

法人自己評価	5 中期目標を大幅に上回る特筆すべき状況となる見込み
	4 中期目標を達成する見込み
	3 中期目標を概ね達成する見込み
	2 中期目標を十分に達成できない見込み
	1 中期目標を大幅に下回る見込み

内容及び判断にあたって考慮した事由

(1) 業務実績

市民病院の隣接地の健康・医療・福祉系施設の管理事業者と協議を行い、医療モール等の一区画を活用するために借り受け、市民への健康講座の開催等、広く市民の健康増進に寄与できる場として具体的な活用方法を検討していたが、新型コロナの影響により、市民講座を大人数で開催することが不可能となった。このため、岡山市と協議し、Webを活用したリモート開催などを実現するための通信・放送設備等を整備し、開催を検討した。

(2) 見込評価理由

新型コロナの影響により、検討していた市民への健康講座等の開催が困難となったが、岡山市と協議し、開催方法等について再度検討することで、市が推進する医療福祉を核としたまちづくりへ貢献できるように努めた。

以上の取組及び成果などにより、令和3年度においても計画を着実に実施する見込みであり、中期目標の達成に向けて計画どおりに実施しているものと考えられる。

(3) 課題と改善方策等

○「1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献」

(H30 課題) 市民の健康増進等に寄与する具体的な活動については、次年度以降期待する。

(実施状況) 医療モール棟の一区画を活用するため借り受けた。借り受けた区画については、市民への健康講座の開催など、広く市民の健康増進に寄与できる場として具体的な活用方法を検討していたが、新型コロナの影響により今後の検討課題となった。

(R元課題) 引き続き、市民の健康増進に寄与する取組について検討を進めていただきたい。

(実施状況) 新型コロナ拡大により市民健康講座等の開催はできていないが、岡山市と協議し、開催に向けWebを活用したリモート開催などを実現するための通信・放送設備

等を整備した。

4. 小項目別の取組実績

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとすべき措置

1 市立市民病院として特に担うべき医療

(1) 市民病院

中期目標	救急医療など市民に必要とされる医療、がん、脳卒中、急性心筋梗塞といった高度で専門性の高い医療を安定的に提供するとともに、糖尿病関連疾患をはじめとした予防医療にも力を入れ、他の医療機関等との役割分担や連携を図ることにより、市民の生命と健康を守ること。
------	--

中期計画	救急医療など市民に必要とされる医療、がん、脳卒中、急性心筋梗塞といった高度で専門性の高い医療を安定的に提供するとともに、糖尿病関連疾患をはじめとした予防医療にも力を入れ、地域の医療機関等と役割分担や連携を促進し、市民の生命と健康を守る。
------	--

目標指標の推移

《目標値》

【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
救急患者数	29,966人	28,263人	21,640人	26,000人	26,000人	25,363人
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	94.7%	91.8%	85.8%	90.0%	90.0%	96.8%
手術件数	4,635件	4,716件	4,131件	4,500件	4,500件	4,414件

《関連指標》

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	平成28年度実績
救急車搬送受入件数	4,778件	4,817件	4,069件	4,159件
救急からの入院患者の割合	18.9%	20.4%	26.3%	24.1%

※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む）×100

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	—	—		

実績見込	
------	--

中期目標	<p>ア 市民病院は、24時間365日すべての症状の患者を受け入れる岡山ERの円滑な実施により、市民が安心できる救急医療を提供するとともに、岡山ERでの救急初期診療後は他の医療機関に引き継ぐコーディネート（転送・転院・紹介）を積極的に行うこと。また、救急医療機関のひとつとして、地域における救急医療の一翼を担うとともに、各医療機関の役割分担と連携を促進し、地域医療ネットワーク全体で救急医療を支える体制づくりに貢献すること。</p>
------	--

中期計画	<p>ア 市民病院は、岡山ERとして24時間365日救急対応する体制を確立し、軽症の自力受診（walk in）患者から重症の救急搬送患者、さらには他の医療機関で受入困難とされた患者まで、すべての症状の救急患者の受入れを目指す。</p> <p>受け入れた救急患者は救急初期診療の後、院内の専門治療部門に引き継ぐとともに、患者の症状に応じてコーディネート（転送・転院・紹介）機能を発揮することで、3次救急医療機関の岡山大学病院をはじめとする地域の医療機関との密な連携を促進する。そのために、救急専門医、トリアージナース等救急医療を担う必要な人材を確保し、さらに、岡山大学等との連携のもとでこれらの人材を育成し、地域へ輩出する役割を果たす。</p>
------	---

目標指標の推移						
<< 目標値 >> 【市民病院】						
項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績見込	第2期 中期計画 目標	平成 28年度 実績
救急患者数	29,966人	28,263人	21,640人	26,000人	26,000人	25,363人
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	94.7%	91.8%	85.8%	90.0%	90.0%	96.8%
<< 関連指標 >>						
項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績		
救急車搬送受入件数	4,778件	4,817件	4,069件	4,159件		
救急からの入院患者の割合	18.9%	20.4%	26.3%	24.1%		
※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む）×100						

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	A	S		

実績見込	<p>令和 2 年度は救急患者数、救急車応需率共に目標値に未達であり、その理由の大半は新型コロナウイルスの蔓延によるものであった。中期目標期間終了時の業績結果は令和 3 年度の実績によると考えるが、これも新型コロナウイルスの蔓延による影響を受けると推測するが、令和 3 年度中にコロナ禍がある程度の収束傾向となれば、救急医療の再構築を行い、目標値を達成する予定である。</p>
------	--

中期目標	イ 第二種感染症指定医療機関として、引き続き現在の役割を果たすこと。また、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、感染症指定医療機関として先導的かつ中核的な役割を果たすこと。
------	--

中期計画	イ 感染症医療について、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者を常時受け入れられる体制を堅持し、特に二類感染症、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、地域で先導的かつ中核的な役割を担う。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">S</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	S		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	S								

実績見込	<p>二類感染症の受入体制については、結核排菌患者の受入れを含めて24時間365日堅持できており、県南東部医療圏を守る機能は十分果たした。岡山県からの依頼による感染症移送ネットワークに係る感染症対策にも対応した。</p> <p>また、備前保健所健康危機管理対策地域連絡会議や岡山市感染症診査協議会、大都市感染症指定医療機関病院長・事務長会議、岡山県新型インフルエンザ等対策訓練に継続して参加し、第二種感染症指定病院として責務を果たした。</p> <p>令和2年2月1日に政令で二類感染症に指定された新型コロナについては、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応して院内体制を構築し、県内発生に対応した。マスコミ対応を徹底し、市民への啓発を行い、疑似症例・陽性確定例の患者の受入れを行政の指示通りに受け入れた。また、新型コロナの重点医療機関の指定を受け、受入れのための設備工事、検査機器の整備、体制の構築等を行い、行政の要請に対応し受入病床の増床と県下トップクラスの陽性患者を受け入れた。</p>
------	---

中期目標	ウ 地域災害拠点病院として、災害その他緊急時に迅速かつ適切な医療提供のできる拠点機能を確保するとともに、大規模災害に備え、傷病者の受入れや災害派遣などの医療救護が実施できる体制を構築すること。
------	--

中期計画	<p>ウ 災害医療について、災害医療研修、災害医療救護訓練を積極的に実施する。また、地域災害拠点病院として災害発生時に迅速な派遣・受入対応ができる体制を整備するとともに、災害発生時の適切な医療活動に備えた医薬品、水、食料などの備蓄や諸設備の維持管理を行う。</p> <p>これまで同様に他の自治体等において大規模災害が発生した場合は関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの確に医療救護活動の支援に努める。また、災害派遣医療チーム（DMAT）や医療救護班の体制も維持する。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	B		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	B								

実績見込	<p>災害派遣医療チーム（DMAT）については、隊員の継続的な訓練、新規DMAT隊員の養成を行った。また、職員のスキルアップを図るため、多数傷病者への医療対応標準化トレーニングコース（MCLS）などの災害医療研修にも積極的に参加した。市民病院における事業継続計画（BCP）に基づき、訓練を行った。災害医療救護訓練や災害対応訓練エマルゴを用いて訓練を行った。さらに、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄などの維持管理を行った。</p> <p>しかし、中期目標期間後半では、新型コロナ拡大に伴い当院で開催予定だった岡山県災害拠点病院医療救護要員研修会が中止となり、DMAT隊員の養成、災害医療研修等も中止となった。一方、新型コロナという緊急時に迅速かつ適切な医療提供のできる拠点機能を確保し、新型コロナの重点医療機関指定を受けた。</p>
------	---

中期目標	エ 小児・周産期に係る地域の医療提供の状況を踏まえ、地域医療機関との連携及び役割分担を行うことにより、安心して子どもを産み育てられる小児・周産期医療を提供すること。
------	--

中期計画	<p>エ 小児医療においては、一般の小児医療を担う役割を果たすため、周産期医療においては、周産期医療を取り巻く状況や医療提供の変化を踏まえ、自治体病院の産婦人科としての役割を果たすため、小児・周産期医療に必要な医療従事者を確保、維持する。</p> <p>また、小児医療について、小児の重症疾患やハイリスク出産等は高度・専門医療機関に搬送するなど地域医療機関と連携し、安心して子どもを産み育てられる医療を提供する。周産期医療については、助産師外来や産後ケアの充実を図り、分娩時以外の妊婦（母体）の健康管理を担うとともに、マタニティセンターにより妊娠から出産までの一連の対応についてトータルコーディネートしていく。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B								

実績見込	<p>小児医療については、小児科常勤医師 3 名の体制を維持し、一般小児医療とともに主としてアレルギー診療を通じて周辺医療機関との連携を深め、地域医療に貢献することができている。さらに小児の重症疾患、病的新生児等においては高次医療機関である岡山医療センター、岡山赤十字病院、岡山大学病院などへ紹介・搬送を行っており適切な連携と対応ができている。</p> <p>産科医師が増員され、分娩時も複数医師が立ち会える機会が増えたのでより安全に出産ができるようになった。新生児異常が予想される時に小児科医の立ち合いを行っている。ハイリスク妊婦の対応については高度医療機関との連携を強化し、母体搬送や急性期後の逆紹介等がスムーズに行なわれた。</p> <p>医師による妊婦健診後に助産師が行う妊婦指導は全妊婦を対象とし、医療面・経済面・生活面あらゆる方面の問題点を抽出して対応することで、より安全安心な出産・育児に貢献した。</p> <p>産後ケア入院は正常分娩後の肉体疲労や育児不安等を解消する目的で開始し、患者の産後の不安を解消することができた。</p> <p>新型コロナの影響で全国的に分娩数は減少傾向に有り、当院も令和 2 年度は 1 0 2 件と前年度の 1 1 9 件と比較して 1 7 件の減少となった。また、学会・研究会等への出席・発</p>
------	---

	<p>表の機会が減ったが、Webを利用することで必要な情報収集や資格取得もかなりスムーズにできるようになった。</p>
--	---

中期目標	オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、必要な診療基盤を備え、地域医療の中で十分な対応が難しい医療を提供すること。
------	--

中期計画	<p>オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、患者が抱えるさまざまな状況に配慮した診療体制をより一層充実させる。</p> <p>また、これまで以上に結核、感染症、確実に対応する救急等市民に必要とされる医療及び市内の医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に努める。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	A		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	A								

実績見込	<p>セーフティネット機能を果たすため、社会的困窮者の受入れについて、常時対応できるよう医療ソーシャルワーカーを配置した。それ以外のセーフティネット機能としては、救急や感染症について常時対応できるよう救急医や医師の確保を行った。救急医療については、「断らない救急」の実践のため、救急疾患の短期入院、ERから直接他院へ転院する仕組みなどを実践した。しかし、新型コロナ対応のための病棟閉鎖に伴う病床満床や複数の救急患者への対応などで救急の応需の制限が生じた。</p> <p>感染症については、新型コロナの影響により、診療規模の縮小や救急受入制限が生じたが、重症病床の整備、陰圧病床の拡充など設備の整備やスタッフの研修を行った。</p>
------	---

中期目標	<p>カ がん診療連携推進病院として、引き続き質の高いがん診療機能を提供するとともに、市民の健康を守る上で重要な脳卒中、急性心筋梗塞等の治療に取り組み、高度で専門性の高い医療及び糖尿病疾患等の予防医療についても安定的に提供すること。</p>
------	--

中期計画	<p>カ 高度専門医療</p> <p>[がん]</p> <p>がん診療連携推進病院として、科学的な知見に基づき、手術、化学療法及び放射線治療法を効果的に組み合わせた集学的医療を提供し、地域のがん診療の連携協力体制の強化に努める。また、がん診療の質的向上に努めるとともに、地域の医療機関と連携、役割分担のもと、がん患者の生活に根差した情報提供等を行う。加えて、がん治療サポートセンターとPFMセンターとの連携によるがん患者に対する入院から退院までの相談支援も充実させていき、治療後の在宅復帰後については、がんリハビリテーションにより支援していく。さらに、市が実施するがん対策等に関する施策に協力し、がん予防に寄与する。</p> <p>[脳卒中]</p> <p>脳卒中に対しては、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科を中心として多職種が協働する脳疾患センターとして対応し、それぞれの専門性をいかした高度な医療を提供する。岡山ERと連携してより多くの重症患者を積極的に受け入れ、早期の急性期リハビリテーションを実施し、治療後は地域の医療機関と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。</p> <p>[急性心筋梗塞]</p> <p>常時、救急患者の一次診療を確実に実施できる体制強化を図る。外科的治療や高度専門医療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携した診療を、それ以外の患者には医師、看護師及びコメディカル等で組んだチームによる早期の急性期リハビリテーションを、治療後は地域の回復期リハビリ施設と連携した患者の早期自立支援を、これまで以上に円滑に実施していくように努める。</p> <p>[糖尿病]</p> <p>診断等の初期診療から合併症を伴う急性増悪時における治療まで対応できる専門診療体制をより一層充実させる。安定治療期間においては、地域の医療機関とこれまで以上に緊密に連携して、患者の健康を管理する。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A								

実績見込

[がん]

新型コロナの影響による病床数の削減等のため、中期目標期間前半は横ばいであった入院患者数が令和2年度はやや減少したが、その中で必要な手術療法や化学療法では新型コロナの感染予防などを徹底し、より安全な治療を行うことができた。

中期目標期間中を通じて、手術療法、化学療法を中心とした集学的治療を提供し、さらに高度専門的な治療が必要な患者に対しては、地域の高度専門医療機関と連携して診療を行った。令和2年度は特に歯科との連携を強化し、がん緩和ケア等の充実を図った。令和3年度も引き続きがん診療連携推進病院として、診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行う。

また、がん治療サポートセンターと入退院管理支援センターの連携、がんリハビリテーションによる退院後の支援も充実させ、市民に対しても公開講座などにより、がんに対する啓発を図った。

[脳卒中]

新型コロナの重点医療機関である当院では、令和2年度には病床数の削減や頻繁な救急受入停止が生じた。脳卒中分野の入院患者数、手術患者数が従前通りのレベルに回復するにはこれらの状況が改善する必要があるが、当院は令和2年度に岡山県南東部における一次脳卒中センターコア施設としての活動を委嘱されており、感染が収束すれば令和3年度は県南東部医療圏における脳卒中診療の中心的役割を果たし、患者数が大幅に増加することが見込まれる。

[心筋梗塞]

緊急カテーテル検査・治療については、すべてに遅滞なく対応し、質の高い治療を実施した。循環器学会が定めたガイドラインに沿い、ほぼ来院から90分以内に緊急冠動脈形成術の治療ができた。

外科的治療（冠動脈バイパス手術等）が必要な患者については、地域の心臓血管外科病院と迅速に連携し、転送して治療を行った。

急性期治療が終了した患者については、合併症の予防と早期退院を進めるため、多職種による包括的心臓リハビリテーションを実施した。

[糖尿病]

新型コロナの重症化因子として高血糖及び肥満があり、新型コロナの重症化予防のため、血糖及び体重のコントロールが極めて重要となった。また、多くの患者が新型コロナに対する不安を抱えるようになった。この新しい状況に対して、地域の病院・診療所訪問で培った他の医療機関との信頼関係を維持し、連携して高度な糖尿病治療を外来と入院で継続して実施した。臨床心理士を含む多職種のチーム医療で不安を抱える患者への心理的

支援も行った。

【市民病院】 ※再掲

項目		平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
入院 患者 数	がん	1,608人	1,592人	1,481人	1,453人
	脳卒中	514人	528人	507人	459人
	急性心筋梗塞	70人	47人	62人	51人
	糖尿病	146人	150人	103人	172人

【糖尿病の外来患者数】

項目		平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
外来患者数	延患者数	34,565人	36,485人	28,861人	37,184人
	実患者数	4,258人	4,304人	3,829人	3,413人

※糖尿病で外来受診した患者数ではなく、外来受診した患者数のうち、糖尿病の病名が登録してあった患者数。

【インスリンポンプ（C S I I）とパーソナル持続血糖測定器付きインスリンポンプ（S A P）使用者数】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
C S I I	6人	6人	6人	8人
S A P	6人	8人	7人	5人

(2) せのお病院

中期目標

市民病院をはじめとした高度専門医療を担っている病院や周辺地域の保健医療福祉関係機関と密接に連携することにより、周辺地域の中心的な役割を担う病院として医療サービスを提供するとともに、地域包括ケアの充実に貢献すること。

中期計画

市民病院をはじめとした高度専門医療を担っている病院や周辺地域の保健医療福祉関係機関と連携し、地域住民の生命と健康を守るために地域全体で円滑に対応できる医療環境の充実に貢献する。

目標指標の推移

年度評価 結果推移

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
—	—		

実績見込

中期目標	ア 周辺地域の中心的な役割を担う病院として地域住民に必要とされる医療を提供する役割を果たすこと。
------	--

中期計画	ア 地域住民が、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療環境を確保するために、地域の医療機関と連携しながら、適切な医療を提供する。
------	---

目標指標の推移						
《目標値》						
【せのお病院】						
項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績見込	第2期 中期計画 目標	平成 28年度 実績
紹介率 ※1	49.6%	55.7%	78.9%	40.0%	40.0%	53.9%
逆紹介率 ※2	60.7%	58.8%	95.8%	57.0%	57.0%	55.3%
病棟カンファレンス	717回	744回	1,088回	380回	380回	250回
※1 紹介率 = (紹介患者数 / 初診患者数) × 100 ※2 逆紹介率 = (逆紹介患者数 / 初診患者数) × 100 ※紹介率については、市民病院からの紹介患者の増加を見込んだ目標値としている。(同一法人内の紹介患者は対象に含まれない。)						

年度評価 結果推移	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">平成30年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和2年度</td> <td style="text-align: center;">令和3年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B		
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B								

実績見込	<p>紹介率、逆紹介率は問題なく目標を達成できる見込みである。病棟カンファレンスにおいても、目標回数を達成するのは確実と考えている。</p> <p>連携している近隣の医療機関や介護施設を利用することで、患者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるように調整するため、病棟カンファレンスの充実を行ってきた。</p> <p>また、開放病床を設けたことや高度医療機器の共同利用を行うことで近隣開業医のバックアップ病院としての役割を果たした。</p> <p>【病床稼働率：せのお病院】</p>
------	---

項目		平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
病床稼働率 ※1	一般病床 ※2	35.0%	—	—	67.3%
	地域包括 ケア病床	83.0%	88.5%	86.6%	72.9%

※1 病床稼働率 = (在院患者延べ数 + 退院患者数) × 100 / (届出病床数 × 日数)
 在院患者延べ数とは、24時現在に入院中の患者の延べ数

※2 せのお病院の一般病床は、平成30年5月から全て地域包括ケア病床に転換している。

中期目標	イ 高度専門医療を担っている病院の後方支援病院としての役割を担うこと。特に市民病院とは市立総合医療センターとして一体的な医療サービスの提供に努めること。
------	--

中期計画	イ 市立総合医療センターとして市民病院と一体となった医療サービスの提供を図るとともに、地域の高度医療機関で一次治療を受けた患者を受け入れる後方支援の役割を果たす。
------	---

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	B	B		

実績見込	<p>高度専門医療を行っている急性期病院の後方支援の役割を果たすため、平成30年5月に全床を地域包括ケア病床とした。</p> <p>近隣の急性期病院には、定期的に空床状況をファックスで情報発信するとともに、直接訪問して当院の状況や機能などを病床管理担当者へ説明するなど、急性期病院の後方支援の役割を果たすように努めた。</p> <p>また、市民病院と電子カルテを共用することで患者情報や空床情報が共有でき、一体化した医療提供を行うことができた。</p>				
	【急性期病院からの紹介患者受入状況】				
	項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
	岡山市民病院	253 件	219 件	205 件	120 件
	岡山労災病院	5 件	11 件	10 件	9 件
	岡山赤十字病院	29 件	26 件	37 件	20 件
	倉敷中央病院	6 件	4 件	9 件	6 件
	その他	15 件	13 件	14 件	4 件
	計	308 件	273 件	275 件	159 件
	【地域包括ケア病床の延入院患者数】				
項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績	
地域包括ケア病床の延入院患者数	17,982 人	19,426 人	19,000 人	6,021 人	
<p>※地域包括ケア病床の沿革（せのお病院全60床）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年12月～：24床（一般病床36床） ・平成29年7月～：40床（一般病床20床） 					

	<ul style="list-style-type: none">• 平成 30 年 4 月～ : 52 床 (一般病床 8 床)
--	--

- 平成 30 年 5 月～ : 60 床 (一般病床 0 床)

中期目標	ウ 救急告示病院として周辺地域の医療機関と協力して初期救急医療を提供する役割を果たすこと。
------	---

中期計画	ウ 周辺地域の救急医療機関と協力しながら、救急告示病院として初期救急医療を提供する役割を果たす。
------	--

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	B	B		

実績見込	<p>近隣開業医からの救急患者の受入要請は、断らない体制を維持することで、地域のバックアップ病院としての役割を果たしてきた。</p> <p>それと同時に、医師の専門性や実施できる検査体制により、せのお病院で対応困難な場合は、トリアージを行い適切な救急医療機関を紹介することで初期救急の役割を果たしてきた。</p>
------	--

中期目標	エ 周辺地域の保健医療福祉関係機関と連携し、地域包括ケアの充実に貢献すること。
------	---

中期計画	<p>エ 医療・介護連携による地域貢献として、西ふれあいセンターが運営する訪問介護事業の夜間業務について、せのお病院が場所を提供する。また、地域の医療機関や地域包括支援センター等と連携して、地域に戻る患者や通院患者に加え、在宅での支援が想定される患者等の把握や、関係機関等との療養及び介護を意識した情報共有に努める。</p> <p>地域包括ケア病床については、入院前から在宅移行を想定した多職種との患者情報の共有及び連携に努めるなど、周辺地域の保健医療福祉関係機関との連携により地域包括ケアに貢献していく。</p>
------	---

目標指標の推移						
《 目標値 》						
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回	4回	0回	4回	4回	1回

年度評価 結果推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>B</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B		
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B								

実績見込	<p>都窪医師会主催の多職種懇親会、北児島医師会主催の北児島ケアネット、南区西地域コアメンバー会議（都窪・北児島医師会に所属する医療機関の多職種による会議）などに参加することで、地域の医療機関や介護施設と顔の見える関係が構築できた。そのため、在宅医療や介護を行う関係機関と円滑な連携が実現でき、患者がスムーズに住み慣れた地域へ退院できるようになったと考える。</p>
------	---

中期目標	オ 大規模災害に備え、傷病者の受入れや医療救護ができる体制を構築すること。
------	---------------------------------------

中期計画	オ 大規模災害に備え、医薬品、食料等を備蓄する。災害発生時には、地域の医療機関と連携し、地域の拠点病院としての医療救護活動を行う。また、災害時の医療救護活動のための研修も行う。
------	--

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	C	C		

実績見込	<p>大規模災害に備え、医薬品、食料などの備蓄品は充足することができた。また、災害時の業務継続計画（BCP）を策定し、訓練も行うことで、継続的に傷病者の受入れや医療救護ができる体制を整備した。</p> <p>また、併せて老朽化した設備を災害に耐えうるように修繕した。</p>
------	---

2 医療の質の向上

(1) 安全・安心な医療の提供

中期目標	ア 市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、医療安全に係る情報の収集及び分析を行うとともに、全職員の医療安全に対する知識向上に努め、医療事故の予防及び再発防止対策に取り組むなど、積極的かつ組織的に医療安全対策を徹底すること。
------	--

中期計画	<p>ア 医療安全に関する会議及び委員会を定期的開催し、インシデント及びアクシデントに関する情報の収集及び分析を速やかに行う。その結果を反映させた上で、医療事故の予防及び再発の防止に取り組むことにより、患者が安心して医療を受けることのできる環境を整備するとともに、全職員の医療安全に関わる知識の向上に努める。また、研修などを通じて情報共有することにより、医療事故の予防及び再発防止に病院全体で取り組む。</p> <p>重大な医療事故が発生した場合には、院内医療事故対策委員会を速やかに開催し、徹底して事故発生の原因分析を行い、再発防止に向けた組織的な対応を図る。</p>
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B								

実績見込	<p>今後の新型コロナ流行状況にもよるが、引き続き、多職種連携で医療安全に関する会議や委員会を定期的開催し、インシデント及びアクシデントに関する情報の収集及び分析を速やかに行い、再発防止に取り組むことにより、患者が安心して医療を受けることのできる環境を整備するとともに、全職員の医療安全に関わる知識の向上に努めた。</p> <p>また研修に関しては、当面集合研修は困難と思われるため、eラーニングなども使いながら医療事故の予防及び再発防止に病院全体で取り組んでいく。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> <tr> <td>医療安全研修</td> <td style="text-align: center;">20 回</td> <td style="text-align: center;">18 回</td> <td style="text-align: center;">3 回</td> <td style="text-align: center;">19 回</td> </tr> </table> <p>※令和 2 年度は eラーニングによる</p> <p>【インシデント・アクシデント報告・分析件数】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績	医療安全研修	20 回	18 回	3 回	19 回	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績					
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績																	
医療安全研修	20 回	18 回	3 回	19 回																	
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績																	

インシデント報告・ 分析件数	2,357 件	2,517 件	2,228 件	2,206 件
アクシデント報告・ 分析件数	37 件	38 件	33 件	27 件

※ただし、インシデント報告・分析件数はアクシデント報告・分析件数を含む

【会議の開催数】

項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績
医療安全管理委員会	12 回	12 回	12 回	12 回
医療安全推進会議 ※	12 回	—	—	12 回
医療安全推進員ワーキング	11 回	11 回	12 回	11 回
薬剤検討ワーキング	8 回	3 回	0 回	13 回
医療安全管理室会議	47 回	46 回	50 回	43 回

※院内全体の会議等の見直しにより、令和元年度から廃止。

中期目標	イ 院内感染防止に対する教育、訓練及び啓発を徹底するとともに、問題点を把握し、改善策を講ずる等の院内感染防止対策を確実に実施すること。
------	---

中期計画	イ 院内感染対策委員会を定期的開催し問題点や課題を検討、解決し、全職員の院内感染に関わる知識の向上に努め、研修への積極的な参加を促す。また、院内感染防止マニュアルの適宜見直しを行い、院内感染の発生防止に取り組む。
------	--

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	A	S		

実績見込	<p>院内感染対策委員会の毎月開催や院内感染管理システムを利用し、耐性菌キャリアを含むサーベイランスの強化を中期目標期間を通じて継続した。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動開始により、抗菌薬使用状況を確認し、感染症の院内動向を把握し耐性菌の発生を最低限に抑制した。また、他施設と継続して相互に訪問評価を実施した。院内感染に関する職員の知識の向上を図るため、研修会を実施した。</p> <p>感染症に罹患した職員の出勤停止期間・自宅療養期間の管理を継続して行った。</p> <p>インфекションコントロールチーム（ICT）による院内ラウンドを週に1回継続して行い、血液培養陽性者に対する支援は365日体制で行った。多剤耐性菌であるMRSA（メチシリン耐性ブドウ球菌）、MDRP（多剤耐性緑膿菌）、ESBL（基質特異性拡張型ベータラクタマーゼ）産生菌、CRE（カルバペネム耐性腸球菌）等の持込に対するスクリーニングの強化とベッドコントロールを適正に継続したことで、院外からの持ち込み症例は多々あったにも関わらず、アウトブレイクを起こすことなく院内感染を減少させた。</p> <p>新型コロナ対策については、県内発生に対応して、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応しつつ、院内体制を構築した。また、職員の健康管理や入院・外来患者の管理を徹底した。それにより、依頼のあった疑似症例の患者や確定患者をすべて受け入れ、完全に中期目標期間中の発生後から令和2年度末までの院内感染の発生を抑制した。また、このことは、近隣病院から感染対策のモデルとして評価され、近隣病院への感染対策の指導も行った。</p>
------	--

【実績値】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績見込	平成 28年度 実績
院内感染対策委員会開催数	12回	12回	12回	12回	12回

【職員研修開催数】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
院内感染に関わる職員研修	33回	43回	16回※	35回

※新型コロナの影響により、うち3テーマについては、eラーニングも活用し、全員参加を図った。

中期目標	ウ 医療法をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、個人情報の保護及び情報公開に関して適切に対応するなど行動規範と倫理を確立し、適正な病院運営を行うこと。
------	--

中期計画	ウ 個人情報保護マニュアルを適宜更新するとともに、コンプライアンスに関する研修を定期的に開催して、職員の行動規範と倫理を徹底する。また、カルテなどの個人情報の保護及び情報公開に関しては、市の条例に基づき適切に対応する。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B								

実績見込	<p>新型コロナ拡大により直近 2 年間については集合研修の実施ができなかったが、Web やビデオ研修など代替手段を講じた。また必要に応じて院内ポータルサイトに個人情報保護やコンプライアンス遵守について文書を掲載し、職員へ周知を行った。また必要に応じてマニュアルの見直しや更新を速やかに行い、常時実態に対応した内容にした。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">個人情報 保護研修</td> <td>全職員対象の研修</td> <td style="text-align: center;">3 回</td> <td style="text-align: center;">0 回※</td> <td style="text-align: center;">0 回※</td> <td style="text-align: center;">3 回</td> <td style="text-align: center;">3 回</td> </tr> <tr> <td>新任職員研修</td> <td style="text-align: center;">7 回</td> <td style="text-align: center;">7 回</td> <td style="text-align: center;">4 回</td> <td style="text-align: center;">6 回</td> <td style="text-align: center;">1 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※新型コロナ流行に鑑み、代替としてポータルサイトに資料を掲載して周知した。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療情報開示件数</td> <td style="text-align: center;">90 件</td> <td style="text-align: center;">78 件</td> <td style="text-align: center;">112 件</td> <td style="text-align: center;">34 件</td> </tr> </tbody> </table>	項目		平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績	個人情報 保護研修	全職員対象の研修	3 回	0 回※	0 回※	3 回	3 回	新任職員研修	7 回	7 回	4 回	6 回	1 回	項目	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績	医療情報開示件数	90 件	78 件	112 件	34 件
項目		平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績	平成 28 年度 実績																									
個人情報 保護研修	全職員対象の研修	3 回	0 回※	0 回※	3 回	3 回																									
	新任職員研修	7 回	7 回	4 回	6 回	1 回																									
項目	平成 30 年度 実績	令和元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績																											
医療情報開示件数	90 件	78 件	112 件	34 件																											

(2) 総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進

中期目標	安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、岡山ERとの連携強化による総合的な診療体制を確立するとともに、多職種連携によりチーム全体で医療を推進するなど、診療体制の強化・充実を図ること。
------	--

中期計画	<p>総合的な診療を充実させるために、体制と業務の両面において強化を図る。</p> <p>体制面では、人材育成のため平成29年10月から市民病院内で運用を開始した人材開発センターを本格稼働させ、医療従事者への教育の質の向上を図る。</p> <p>業務面では、岡山ERと各診療科との連携による救急診療及び専門診療をさらに充実させ、ICT、NSTや口腔ケアをはじめ多職種で構成されるチーム医療を積極的に行う。</p>
------	--

目標指標の推移

《目標値》

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
スキルアップ研修 (全職員対象)	16回	22回	6回	24回	24回	20回
病棟カンファレンス	入院時カンファレンス	7,184回	5,628回	4,627回	5,500回	5,429回
	その他カンファレンス	1,571回	1,439回	1,603回	1,800回	1,717回

年度評価 結果推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>A</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	A	A		
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
A	A								

実績見込	<p>体制面において従来の新採用者研修に加え、人材開発センター主導による中途入職者、育児休業復帰者合同研修を実施することで研修体制の強化を行った。</p> <p>人材育成のため、平成29年10月から市民病院内で運用を開始した人材開発センターを平成30年度から本格稼働させ、医療従事者への教育の質の向上を図った。具体的には、人材開発センターで多職種にわたる研修会を一元管理することで効率化した。業務面では、病棟カンファレンスを充実し、入院時カンファレンス、その他のカンファレンスで目標を大きく上回る実施を達成できた。その他栄養サポートチーム(NST)研修会、救急搬送</p>
------	--

事例検討会など多職種での研修会を開催し、各科専門領域診療の強化、救急・総合診療の充実、チーム医療・他部門間の連携強化の更なる向上を図った。

令和元年度には目標が達成可能なレベルに到達してきたが、新型コロナの蔓延により対面型の研修やカンファレンスが困難となり実施回数が大幅に低下し、IT技術を応用したリモート型の研修やカンファレンスを導入したが、対面型で行い得た回数の実施には至っておらず、課題が残った。

(3) 医療の標準化の推進

中期目標	ア 法人内の医療系と事務系を統合した総合情報システムの活用により、医療の質の向上、さらには患者サービスの向上を図ること。
------	--

中期計画	ア 法人内の医療系と事務系を統合（物理統合・論理分離）したネットワークインフラの上で一元管理している総合的な医療情報システムのデータベースを最大限に活用する。また、デイリーで更新した経営指標に係る数値を全職員が容易に確認できるように、継続してポータルサイト上で可視化する。これらの取組により医療の質向上、患者サービスの向上、経営改善意識の向上につなげていく。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A								

実績見込	<p>中期目標期間では、医療の標準化の推進を行い、総合情報システムの機器更新、電子カルテシステムの更新に着手した。</p> <p>総合情報システムでは、病院間の回線の変更、インターネット接続方法の変更、ネットワーク機器の保証期限が近いものから計画的に更新、機能強化を行い、通信環境の改善を行い、安定した通信環境の構築が行えた。</p> <p>情報共有のため構築されたポータルサイトでは、掲載情報や掲載方法の見直しを行い、日々の経営状況の確認、法人で決定した重要事項や新型コロナに対する診療の方針、職員の行動制限等、重要な情報を全職員にタイムリーに伝達した。</p> <p>第3期中期目標期間中に更新となる電子カルテシステムは、現行システムの安定稼働に努めた。通信環境の改善となるよう総合情報システムを更新し、患者サービスの向上、医療現場の効率化のために、非接触での問診システム、AIシステムの導入を行った。</p>
------	---

中期目標	イ 客観的な根拠に基づく個々の患者への最適な医療を提供するとともに、クリニカルパスの充実と活用による医療の標準化に取り組むこと。
------	--

中期計画	イ 厚生労働省や学会等のガイドラインに基づいて、現時点の標準とされる医療の提供に積極的に取り組む。その方法としてクリニカルパスの充実と活用を推進し、アウトカムに基づく新しいクリニカルパスの作成を進める。
------	---

目標指標の推移						
≪ 目標値 ≫						
項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績見込	第2期 中期計画 目標	平成 28年度 実績
クリニカルパス種類数	239	273	250	260	145	123

※実績見込と中期計画の目標値が異なる

年度評価 結果推移	<table border="1"> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A								

実績見込	<p>クリニカルパス種類数、使用率については年々上昇した。</p> <p>クリニカルパス大会についても、新型コロナの影響で開催に制限がでたが、院内のみならず、院外向けにもクリニカルパス大会を行ない、知見を共有した。</p> <p>クリニカルパスの使用方法についても勉強会を院内で行なっており、随時適正使用できるように努めた。また作成したパスについても、令和2年度から入退院管理支援センター主導で、各関係職種の視点から見直しを順次行なっており、よりよいパスに改訂を行なった。</p> <p>クリニカルパスに対する院内の諸問題について、毎月パスチームにて会議を行ない、改善を行っている。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2年度 実績</th> <th>令和 3年度 実績見込</th> <th>平成 28年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス使用率</td> <td>44.7%</td> <td>54.8%</td> <td>56.0%</td> <td>55.0%</td> <td>36.3%</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス大会</td> <td>5回</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>5回</td> <td>6回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績見込	平成 28年度 実績	クリニカルパス使用率	44.7%	54.8%	56.0%	55.0%	36.3%	クリニカルパス大会	5回	4回	4回	5回	6回
項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績見込	平成 28年度 実績														
クリニカルパス使用率	44.7%	54.8%	56.0%	55.0%	36.3%														
クリニカルパス大会	5回	4回	4回	5回	6回														

	クリニカルパス開発支援会議 ※	12回	12回	12回	12回	12回
※令和元年度に「クリニカルパス委員会」から「クリニカルパス開発支援会議」へ名称変更。						

(4) 調査・研究の実施

中期目標	医療に関する調査や臨床研究、治験を推進する体制を整備し、積極的に取り組むこと。
------	---

中期計画	自院での研究や他の医療機関との共同研究を含め、新しい薬剤や医療機器の開発、新しい治療法の開発等に関する臨床試験や治験を積極的に推進し、国の承認に貢献することで、研究レベルの医療を市民が通常受けることができる医療となるように努める。また、その成果をもとに学会発表や研究論文として発表する。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A								

実績見込	<p>治験・臨床試験・販売後調査については中期目標期間開始時から順調に増加傾向にあったが、新型コロナ蔓延に伴い中止された治験が多数あり、販売後調査や臨床研究についても新規案件が減少傾向になり案件数では低調になったが、新型コロナ関連の治験は増加し、受託案件については順調に症例登録が進んでおり、受託能力についてはレベルアップが進みつつある。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績見込</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">治験</td> <td>継続：16 件</td> <td>継続：18 件</td> <td>継続：21 件</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>継続：18 件</td> </tr> <tr> <td>新規：7 件</td> <td>新規：8 件</td> <td>新規：4 件</td> <td>新規：10 件</td> <td>新規：13 件</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">新薬販売後 調査</td> <td>継続：60 件</td> <td>継続：65 件</td> <td>継続：35 件</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td>継続：53 件</td> </tr> <tr> <td>新規：16 件</td> <td>新規：18 件</td> <td>新規：15 件</td> <td>新規：20 件</td> <td>新規：16 件</td> </tr> <tr> <td>臨床試験</td> <td style="text-align: center;">46 件</td> <td style="text-align: center;">63 件</td> <td style="text-align: center;">33 件</td> <td style="text-align: center;">10 件</td> <td style="text-align: center;">14 件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績見込	平成 28 年度 実績	治験	継続：16 件	継続：18 件	継続：21 件	—	継続：18 件	新規：7 件	新規：8 件	新規：4 件	新規：10 件	新規：13 件	新薬販売後 調査	継続：60 件	継続：65 件	継続：35 件	—	継続：53 件	新規：16 件	新規：18 件	新規：15 件	新規：20 件	新規：16 件	臨床試験	46 件	63 件	33 件	10 件	14 件
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績見込	平成 28 年度 実績																														
治験	継続：16 件	継続：18 件	継続：21 件	—	継続：18 件																														
	新規：7 件	新規：8 件	新規：4 件	新規：10 件	新規：13 件																														
新薬販売後 調査	継続：60 件	継続：65 件	継続：35 件	—	継続：53 件																														
	新規：16 件	新規：18 件	新規：15 件	新規：20 件	新規：16 件																														
臨床試験	46 件	63 件	33 件	10 件	14 件																														

3 市民・患者サービスの向上

(1) 患者中心の医療の提供

中期目標	ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者への十分な説明と同意のもとに患者の視点に立った質の高い医療を継続して提供すること。
------	---

中期計画	ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者の視点に立った質の高い医療を継続して提供するため、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供するインフォームドコンセントを徹底するとともに、セカンドオピニオンの相談に適切に対応する。また、患者との信頼関係構築のため、患者側と医療機関側の対話の橋渡しをする院内医療メディエーターの導入の準備を進めるなど、医療相談窓口機能を強化する。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> <th>令和 2 年度</th> <th>令和 3 年度</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B								

実績見込	<p>インフォームドコンセントについては、平成 30 年度に電子カルテシステム内の治療計画、手術同意書などの書式を整備し、引き続き患者への確実な履行に努めた。</p> <p>また、患者の希望により他院のセカンドオピニオン外来へつなぎ、また、市民病院でも他院からのセカンドオピニオン外来を受け入れた。</p> <p>医療相談窓口としては、患者相談室やがん相談支援センターを相談の窓口として設け、受け付けた相談は、週に 1 度、医療安全管理者も含めた多職種によるカンファレンスで検討し、内容を各部署へ周知した。</p> <p>患者との信頼関係構築のために、職員が医療メディエーターの研修を受けた。</p> <p>【セカンドオピニオン外来件数】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>他院から市民病院</td> <td style="text-align: center;">2 件</td> <td style="text-align: center;">3 件</td> <td style="text-align: center;">5 件</td> <td style="text-align: center;">7 件</td> </tr> <tr> <td>市民病院から他院 ※</td> <td style="text-align: center;">—</td> <td style="text-align: center;">1 件</td> <td style="text-align: center;">3 件</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成 30 年度以前は集計していない。</p>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績	他院から市民病院	2 件	3 件	5 件	7 件	市民病院から他院 ※	—	1 件	3 件	—
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績												
他院から市民病院	2 件	3 件	5 件	7 件												
市民病院から他院 ※	—	1 件	3 件	—												

中期目標	イ 患者との信頼関係の構築に努め、多職種と連携して医療を提供すること。
------	-------------------------------------

中期計画	<p>イ 患者に対して、薬物療法の安全性と質の向上のために薬剤師による薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法の一層の充実を図る。また、入院患者におけるチーム医療の向上のため、平成28年度より開始した病棟薬剤業務の充実に努める。</p> <p>さらに、管理栄養士による各種栄養食事指導及び入院患者に対しての食事相談についても一層の充実を図る。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成30年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和2年度</td> <td style="text-align: center;">令和3年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	A	A		
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
A	A								

実績見込	<p>患者に対して、薬物療法の安全性と質の向上のために行っている薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法についての取組は、いずれの年度においても目標を達成し向上が図られた。また、チーム医療の向上のため病棟薬剤業務の充実では、ICUを含む9病棟に加えてHCUへの薬剤師の配置も行った。注射薬の個人セットでは安全面を考慮し、薬剤部での24時間対応とし、質及び安全面がさらに向上できた。</p> <p>各種栄養指導については、新型コロナ陽性患者の診療、また予防対策のため、件数目標を達成することができない可能性が高い。しかしながら、感染対策を十分に行い、必要な患者への栄養指導を行い、多職種チームによる患者の食事療法をサポートは継続している。</p> <p>入院患者食事相談については、食事サービスの向上のため、当院の管理栄養士、委託業者の栄養士及び調理師が協働で食事相談を実施しており、年々相談件数を伸ばすことができている。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成30年度実績</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績見込</th> <th>平成28年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数（薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ，退院）</td> <td style="text-align: center;">16,553件</td> <td style="text-align: center;">16,278件</td> <td style="text-align: center;">15,468件</td> <td style="text-align: center;">14,000件</td> <td style="text-align: center;">10,379件</td> </tr> <tr> <td>無菌製剤処理料件数（ⅠⅡ）</td> <td style="text-align: center;">3,843件</td> <td style="text-align: center;">4,117件</td> <td style="text-align: center;">3,894件</td> <td style="text-align: center;">3,600件</td> <td style="text-align: center;">4,147件</td> </tr> <tr> <td>外来化学療法加算数（Ⅰ）</td> <td style="text-align: center;">1,179件</td> <td style="text-align: center;">1,518件</td> <td style="text-align: center;">1,439件</td> <td style="text-align: center;">1,100件</td> <td style="text-align: center;">1,532件</td> </tr> <tr> <td>各種栄養指導合計件数</td> <td style="text-align: center;">1,823件</td> <td style="text-align: center;">1,704件</td> <td style="text-align: center;">1,326件</td> <td style="text-align: center;">1,380件</td> <td style="text-align: center;">1,480件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	平成28年度実績	薬剤管理指導件数（薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ，退院）	16,553件	16,278件	15,468件	14,000件	10,379件	無菌製剤処理料件数（ⅠⅡ）	3,843件	4,117件	3,894件	3,600件	4,147件	外来化学療法加算数（Ⅰ）	1,179件	1,518件	1,439件	1,100件	1,532件	各種栄養指導合計件数	1,823件	1,704件	1,326件	1,380件	1,480件
項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	平成28年度実績																										
薬剤管理指導件数（薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ，退院）	16,553件	16,278件	15,468件	14,000件	10,379件																										
無菌製剤処理料件数（ⅠⅡ）	3,843件	4,117件	3,894件	3,600件	4,147件																										
外来化学療法加算数（Ⅰ）	1,179件	1,518件	1,439件	1,100件	1,532件																										
各種栄養指導合計件数	1,823件	1,704件	1,326件	1,380件	1,480件																										

	入院患者食事相談件数	332 件	414 件	474 件	450 件	371 件
	(各種栄養指導実績内訳)					
	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績	
	個人指導	(外来) 505 件 (入院) 840 件	(外来) 527 件 (入院) 810 件	(外来) 476 件 (入院) 626 件	(外来) 262 件 (入院) 783 件	
	集団指導	96 件	76 件	0 件	77 件	
	人間ドック、特定健診	69 件	65 件	37 件	53 件	
	透析予防指導	313 件	226 件	187 件	305 件	
	計	1,823 件	1,704 件	1,326 件	1,480 件	

中期目標	ウ 患者ニーズの把握及び改善などによりサービスの向上を図るとともに、医療の質の向上につなげること。
------	---

中期計画	<p>ウ 患者満足度調査や投書箱の活用により、患者ニーズの動向を的確に把握し、サービスの向上を図るとともに、院内環境の整備を進め、快適な療養環境を提供することで、医療の質の向上につなげる。</p> <p>退院に際しては、地域連携室の登録医療機関と連携して、切れ目のない診療体制を強化していく。</p>
------	--

目標指標の推移						
<< 目標値 >> 【患者満足度調査結果（満足＋やや満足）】						
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績見込	第 2 期 中期計画 目標	平成 28 年度 実績
入院	92.8%	94.7%	97.8%	95.0%	95.0%	94.7%
外来	92.0%	95.2%	97.9%	80.0%	80.0%	77.4%

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B								

実績見込

新型コロナ拡大により入院・外来ともに患者数が減少し、特に入院患者については調査件数が大きく減少した。しかし、入院については徹底した感染防止対策が評価され、満足度は向上した。外来も患者数は減少したが、調査回数を増加させたことにより、例年並みの調査件数を維持した。なお、外来の満足度も向上した。調査数の減少は当分の間継続すると想定される。特に入院については制限をかけていることもあり、安全・安心に行える満足度調査の方法が今後の検討課題である。

当院の使命の一つである「断らない救急」を持続していくため、地域の病院との「市民病院地域ネットワーク」を活用するなど、各病院の機能、役割を明確化した上で、密な連携を図り、外来から入院、そして退院・転院と切れ目のない診療体制を強化することに努めた。

退院支援に際しては、地域包括支援センターや地域の介護サービス関係者との情報共有を密に行い、円滑な在宅生活への移行と、安心して暮らせる環境づくりの支援を行った。

特に生活課題が大きいケースや介入が困難なケースについては、地域ケア総合推進センターとも相談・連携が行えるよう、定期的な会議のほか、個々のケースの共有を図った。また、地域の支援関係者との支援会議にも参加し、地域における諸問題を共有し、当院に求められる役割の把握に努めた。

(関連指標)【患者満足度調査結果(満足+やや満足)】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
入院	692 (回答数 746)	735 (回答数 776)	491 (回答数 502)	848 (回答数 895)
外来	503 (回答数 547)	678 (回答数 712)	705 (回答数 720)	72 (回答数 93)

中期目標	エ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、適切な紛争解決の方法を確保すること。
------	--

中期計画	エ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、円滑かつ円満な解決に努める。
------	--

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	B	B		

実績見込	<p>係争中の紛争は、顧問弁護士と協議・相談しながら早期決着を目指していく。</p> <p>日々発生するクレームの対応は、今後も専門職員による迅速な対応を継続する。</p>
------	--

(2) 職員の接遇向上

中期目標

患者やその家族、市民から信頼を得られるように職員の意識を高め、接遇の向上に努めること。

中期計画

患者満足度調査における接遇項目の評価から問題点、課題を抽出し、それらを改善するための研修会の実施及び接遇向上のための重点取組期間を設けることにより、患者やその家族に対する接遇向上に努める。

年度評価 結果推移

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
A	B		

実績見込

教育・研修委員会を中心に接遇に関する全体研修やワークショップを実施し、意識向上に努めた。また令和 2 年度においては新型コロナ拡大の影響もあり、全体研修の実施は見送られたが、スローガンに基づいた接遇目標では、各部署が患者に安心を与えられるような目標をそれぞれで考え実践した。このように職員が自ら考えて行動ができるようになり、接遇意識は着実に向上している。

新型コロナ拡大の影響はしばらく継続すると想定されるため、Web開催の導入も積極的に取り入れるなど研修方法を拡充して、全職員の研修参加を目指す。

(3) 市民や患者にわかりやすい情報発信

中期目標	市立病院の役割や機能に加え、疾病予防や健康に関する情報等、市民や患者にわかりやすい情報発信に積極的に取り組むこと。
------	---

中期計画	<p>患者やその家族、市民に向けて、病院の役割・機能、診療実績、専門医の紹介等の診療情報、財務諸表等の経営情報、疾病予防や健康に関する情報等についてホームページや広報誌等を活用してわかりやすく発信する。加えて、広報媒体を通じてさまざまな行事やその様子を伝え、地域との関わりを深めることで地域での社会的認知向上を目指す。</p> <p>また、院内健康教室、市民公開講座等の開催情報を発信して健康教育を推進する。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	A		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	A								

実績見込	<p>情報発信については、計画通り順調に実施できた。広報誌やホームページ、フェイスブック、院内掲示を利用した定常的な広報活動に加え、市民を対象に各種イベントや市民公開講座、患者向け教室を開催し、コミュニケーションをとりながら健康情報に触れていただける機会を増やした。</p> <p>平成30年度からは、信頼のおけるメディアからの情報発信の増加をテーマに、新聞からの情報発信を活性化させた。各種イベントの告知や健康情報、診療科の取組について情報発信の活性化を実現し、それまで年間10件未満だった新聞での発信件数を倍増し、維持している。また、連携医療機関向けの資料冊子やリーフレット等も作成し、訪問しながら説明を実施することで当院の診療体制を知ってもらい、患者紹介の利便性を高めた。</p> <p>令和元年度は7月に法人・市民病院・せのお病院のホームページをリニューアルし、デザイン性や機能性を向上させた。</p> <p>令和2年度は、新型コロナの影響で市民向けイベントや教室は実施できなかったが、感染拡大防止の目的で各メディアからの取材要請が急増し、可能な限り協力することで、市民への感染防止対策の重要性の伝達に貢献した。岡山市が展開する「スイッチ！おかやま」の広報キャンペーンにも、撮影やポスター掲示、取材対応などで賛同・協力した。</p>
------	--

4 地域医療ネットワークの推進

(1) 地域医療連携の推進

中期目標	<p>岡山大学をはじめとした急性期病院間での適切な役割分担を進めるとともに、回復期・慢性期の医療機関等、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図ることにより、地域医療ネットワークの確立に努めること。</p> <p>また、地域医療連携を円滑に行っていくため、地域の医療機関との診療情報の共有化を図ること。</p>
------	--

中期計画	<p>急性期から回復期、慢性期、在宅まで切れ目のない医療を市民へ提供できるように地域医療ネットワークの確立に努める。そのために、岡山大学をはじめとした地域の各医療機関との適切な役割分担のもと、病院間、病院と診療所間の連携を促進するとともに、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図る。</p> <p>市民病院は、脳卒中、大腿骨頸部骨折、がん等地域連携クリティカルパスの適用を推進するとともに、医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）への参加によるカルテ情報の共有等により、地域医療機関との円滑な連携をより一層推進する。</p> <p>また、岡山県がん診療連携推進協議会を通じて連携拠点病院と協力してがん診療を進めていく。</p>
------	--

目標指標の推移

《目標値》

【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
紹介率 ※1	63.3%	66.0%	70.0%	50.0%	50.0%	59.2%
逆紹介率 ※2	96.4%	90.7%	95.7%	70.0%	70.0%	94.4%
地域連携クリティカルパス適用件数	267件	370件	379件	260件	260件	251件

《目標値》【せのお病院】（再掲）

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
紹介率 ※1	49.6%	55.7%	78.9%	40.0%	40.0%	53.9%
逆紹介率 ※2	60.7%	58.8%	95.8%	57.0%	57.0%	55.3%

※1 紹介率 = (紹介患者数 / 初診患者数) × 100

※2 逆紹介率 = (逆紹介患者数 / 初診患者数) × 100

年度評価 結果推移	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
	A	A		

実績見込	<p>新型コロナ拡大の影響を受け、令和 2 年度から紹介件数等が減少したが、紹介率・逆紹介率等の指標は目標値を上回った。今後も集合形式の研修会開催や医療機関への訪問などが制限される中、引き続き情報通信技術（I C T）を活用したオンライン形式によるカンファレンスや研修会等を積極的に実施し、地域医療支援病院としての役割を果たしていく。</p>					
	【実績値】 市民病院					
	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績見込	平成 28 年度 実績
	紹介患者予約件数	7,066 件	7,609 件	4,254 件	8,000 件	5,879 件
うちカルナコネク トによる予約（紹介患 者受診予約システ ム）	1,704 件	1,902 件	1,584 件	2,000 件	1,397 件	
(関連指標) 【晴れやかネット開示件数】						
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績		
晴れやかネット開示件数	149 件	153 件	199 件	153 件		

(2) 在宅医療を含む地域医療への支援

中期目標

ア 地域医療支援病院として高度医療機器等の共同利用や開放病床の利用を促進するなど地域の医療機関を支援し、在宅医療の推進に向けた取組を実施すること。

中期計画

ア 在宅医療については、患者やその家族の意向を尊重しながら、疾病を抱えていても在宅で生活を送れるよう、地域の保健医療福祉関係機関と連携体制を構築し、切れ目のない医療を提供するとともに、緊急時には入院が受け入れられる体制を強化する。

また、地域医療支援病院として引き続き地域の医療機関に対する開放病床や検査機器等の共同利用を促進する。

目標指標の推移

《目標値》【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
在宅復帰率	91.2%	91.2%	89.2%	80.0%	80.0%	91.7%
退院前カンファレンスの開催	781件	742件	173件	700件	700件	652件

年度評価 結果推移

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
B	B		

実績見込

新型コロナ拡大の影響を受け、令和2年度から退院前カンファレンス等の開催件数が減少した。年度途中からはオンライン形式による退院前カンファレンスの開催環境も整え、現場への利用促進を進めた。

今後も集合形式の研修会や対面による面談等が制限される中、引き続き情報通信技術（ICT）を活用したオンライン形式によるカンファレンスや研修会等を積極的に実施し、地域医療や在宅医療の推進における地域医療支援病院としての役割を果たしていく。

【実績値】

項目		平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績見込	平成 28年度 実績
医療機器共同利 用件数	CT	490件	540件	393件	520件	374件
	MRI	682件	673件	525件	700件	578件

【市民病院】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
地域医療機関等の参加する講演 会開催数	24回	15回	11回	25回

(内訳)

講演会	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
市民病院主催	17回	9回	9回	17回
3S会(※)	3回	3回	2回	3回
救急症例検討会	4回	3回	0回	5回
計	24回	15回	11回	25回

※診療機関と市民病院による市民のための研究会

中期目標	イ 医師の偏在等による医師不足が深刻な地域の医療機関へ医師を派遣するなど人的支援に努めること。また、自治体病院間の連携において、中心的な役割を果たし、地域医療を支えること。
------	--

中期計画	イ 医師の偏在等による医師不足が深刻な地域の医療機関へ医師を派遣するなど人的支援に努める。また、自治体病院間の連携において、地域医療を担う医師の教育や地域定着への貢献に努めることにより地域医療を支える。
------	---

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	A	A		
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
A	A								

実績見込	<p>新型コロナ拡大の状況を注視しながらも、地域医療への貢献のため、医師不足が深刻な地域の医療機関への人的支援に努めた。</p> <p>【医師派遣先】</p>				
	病院名	平成30年度 実績	令和元年度 実績	令和2年度 実績	平成28年度 実績
	美作市立大原病院	毎週土曜日 1人	毎週土曜日 日当直1人	毎週土曜日 日当直1人	毎週土曜日 1人
	湯原温泉病院	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人
	倉敷市立市民病院 (旧称：児島市民病院)	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人 第1土曜日 日当直1人	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人	毎週月曜日 日中通し 1人 午前のみ 1人 午後のみ 1人 毎週水曜日 1人
	瀬戸内市民病院	第1土曜日 当直1人 第3土曜日 当直1人	派遣要請 なし	派遣要請 なし	第3土曜日 1人
	福渡病院	毎週木曜日 1人 第2・4土曜日 日当直 各1人 第2土曜日 1人	第3月曜日 1人 第2・4木曜日 1人 第1・2・4土曜日 日当直各1人	第3月曜日 1人 第2・4木曜日 1人 第1・2・4土曜日 日当直各1人	第3火曜日 1人 第2・4土曜日 各1人
	玉野市民病院	毎週火曜日 1人 毎週月・火・水曜日 当直1人 毎週水曜日 午後1人	毎週月曜日 1人 毎週火曜日 勤務・当直 各1人 第1・3水曜日 午前1人 毎週水曜日	毎週月曜日 1人 毎週火曜日 勤務・当直 各1人 第1・3水曜日 午前1人 毎週水曜日	毎週火曜日 1人

			勤務（午前）・当直 各 1 人	勤務（午前）2 人 当直 1 人	
	矢掛病院※	毎週月・金曜日 午後 1 人	毎週月・金曜日 午後 1 人	毎週月・水・金曜日 午後 1 人	
<p>※矢掛病院は、平成 3 0 年度から派遣開始。</p>					

5 教育及び人材育成

中期目標	<p>地域医療を担う医師等の安定的・継続的確保に貢献するため、岡山地域において医師等の教育機関である岡山大学と共同し、救急専門医や総合診療医の育成を目的とした連携大学院等を活用した教育・人材育成の強化を図ること。</p> <p>また、研修医を積極的に受け入れるとともに、医学生をはじめとする研修生・実習生に対する教育の充実など、医療従事者の育成に努めること。</p>
------	---

中期計画	<p>院内外からの医師に対する教育及び人材育成の質の向上のため、卒後臨床教育研修センターをより一層充実させ、必要な医師のリクルートや専門医研修に関する業務を集中管理する。加えて、岡山大学と共同し、市民病院を臨床研究の場とする連携大学院での総合診療医や救急医の育成等地域医療を担う人材の安定的・継続的確保に貢献する。</p> <p>また、平成29年10月から市民病院内で運用を開始した人材開発センターを本格的に稼働させ、新人採用から管理職までキャリア別のプログラムにより、職員の教育及び人材育成に関わる業務について一元管理のもと、知識・技術、マネジメント能力、組織人としての能力向上を目指した教育研修体制を整備する。</p> <p>さらに、研修医や医学生に対して日常の診療カンファレンスとは別に研修会を実施するとともに、看護師や救命救急士、学生等の実習生を積極的に受け入れる。</p>
------	---

目標指標の推移

《目標値》【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率	100%	100%	100%	100%	100%	100%
研修医・医学生への研修会実施回数	30回	12回	12回	12回	12回	30回
研修医が参加するカンファレンスの回数	103回	91回	44回	80回	80回	—

年度評価 結果推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	A	A		

実績見込	<p>研修医の受入れは、中期目標期間中を通じて100%（目標値：100%）対応した。研修医・医学生への研修会実施回数や、研修医の参加するカンファレンスについては、新型コロナウイルス蔓延の中でも実施した。岡山県の研修医定員が大幅に制限される中、定員10名を確保し研修体制を堅持した。</p> <p>救急救命士の実習については、依頼された実習を100%受け入れ、救命救急士のスキルアップに貢献した。</p> <p>大学院制度においても大学病院との連携を深め、実践総合診療学講座、実践救命救急・災害医学講座・実践地域総合外科学講座を維持し、引き続き救急医療現場での人材育成体制を強化した。</p> <p>指導医教育にも取り組み、臨床研修指導医は退職等の異動はあったが常に目標値は超えており、令和2年度末には51名であった。</p> <p>組織体制として整備した人材開発センターでは、新人採用から管理職まで階層別にキャリアに応じたプログラムを計画し、研修を実施した。また、研修後に振り返りの評価も行い、翌年度以降に反映させる運用を開始した。</p>
------	--

6 保健・医療・福祉連携への貢献

(1) 保健医療福祉行政への協力

中期目標	<p>市民病院内に市が設置している保健・医療・福祉連携に係る総合相談窓口である地域ケア総合推進センターと密接に連携し、患者の退院後の生活支援や市民からの医療に係る専門的な相談に対する支援などの役割を担うこと。</p> <p>また、市の保健医療福祉部門との情報交換などにより連携を推進すること。</p>
------	--

中期計画	<p>市民病院内に市が設置している地域ケア総合推進センターと密接に連携し、共催で多職種研修会を開催する。加えて、地域における医療、介護の専門職の人材育成への協力、市民との意見交換会の開催を継続していく。</p> <p>また、退院調整における困難事例については、地域ケア総合推進センターと協働し、多職種間で情報を共有しながら支援していく。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	C		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	C								

実績見込	<p>地域ケア総合推進センターとカンファレンスを実施しているが、新型コロナの影響下において、より一層地域ケア総合推進センターとの密接な連携を図る必要性は高まっており、令和2年度には具体的な協働について相談を始め、共催で研修会を実施することができた。</p> <p>今後も、定例での会議や事業を通して、個々のケースについて必要な相談・連携ができる体制づくりを進める。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">項目</th> <th style="text-align: center;">平成 30 年度 実績</th> <th style="text-align: center;">令和 元年度 実績</th> <th style="text-align: center;">令和 2 年度 実績</th> <th style="text-align: center;">令和 3 年度 実績見込</th> <th style="text-align: center;">平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">地域ケア総合推進センター と入退院管理支援センター で実施するカンファレンス ※</td> <td style="text-align: center;">5 回</td> <td style="text-align: center;">5 回</td> <td style="text-align: center;">7 回</td> <td style="text-align: center;">6 回</td> <td style="text-align: center;">—</td> </tr> </tbody> </table> <p>※平成28年度は集計していない。</p>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績見込	平成 28 年度 実績	地域ケア総合推進センター と入退院管理支援センター で実施するカンファレンス ※	5 回	5 回	7 回	6 回	—
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績見込	平成 28 年度 実績								
地域ケア総合推進センター と入退院管理支援センター で実施するカンファレンス ※	5 回	5 回	7 回	6 回	—								

【保健医療福祉関係団体等との連携会議】

会議名	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	平成 28年度 実績
岡山市北区中央地域コアメンバー会議※	—	—	—	6回
岡山市北区中央コア会議※	3回	2回	12回	—
北児島ケアネット	4回	2回	0回	4回
北長瀬カフェ	12回	10回	0回	6回

※市が主催の岡山市北区中央地域コアメンバー会議は、平成30年度から地域の自主的な取組に移行しており、北区地域で自主的に開催された多種職連携会議（岡山市北区中央コア会議）に引き続き参加した。

(2) 疾病予防の取組

中期目標	市民に対する健康支援講座の開催や健康支援に係る相談など、引き続き市民の疾病予防に向けて取り組むこと。
------	--

中期計画	市民の健康を守るため、市民に対して健康支援講座を定期的に開催するとともに、健康支援に係る相談に応じるなど引き続き市民の疾病予防に向けて取り組む。
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>平成 30 年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和 2 年度</td> <td>令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	B	B		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
B	B								

実績見込	<p>新型コロナの流行のため、市民公開講座の開催が困難になり、今後は別の方法も検討する。</p> <p>院外患者向けの定期刊行雑誌「岡山市民病院だより 北長瀬の風」で疾病についての情報発信及び病院食嗜好調査は継続した。</p> <p>【栄養管理委員会実施市民公開講座】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>令和 3 年度 実績見込</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数</td> <td>2 回</td> <td>2 回</td> <td>0 回</td> <td>1 回</td> <td>2 回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【市民公開講座参加者数】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>109 名</td> <td>108 名</td> <td>0 名</td> <td>83 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>【病院食嗜好調査】</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成 30 年度 実績</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2 年度 実績</th> <th>平成 28 年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>3 回</td> <td>3 回</td> <td>3 回</td> <td>3 回</td> </tr> <tr> <td>1 回目実施者数</td> <td>145 名</td> <td>146 名</td> <td>189 名</td> <td>133 名</td> </tr> <tr> <td>2 回目実施者数</td> <td>152 名</td> <td>133 名</td> <td>201 名</td> <td>131 名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績見込	平成 28 年度 実績	栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数	2 回	2 回	0 回	1 回	2 回	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績	参加者数	109 名	108 名	0 名	83 名	項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績	実施回数	3 回	3 回	3 回	3 回	1 回目実施者数	145 名	146 名	189 名	133 名	2 回目実施者数	152 名	133 名	201 名	131 名
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	令和 3 年度 実績見込	平成 28 年度 実績																																						
栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数	2 回	2 回	0 回	1 回	2 回																																						
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績																																							
参加者数	109 名	108 名	0 名	83 名																																							
項目	平成 30 年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2 年度 実績	平成 28 年度 実績																																							
実施回数	3 回	3 回	3 回	3 回																																							
1 回目実施者数	145 名	146 名	189 名	133 名																																							
2 回目実施者数	152 名	133 名	201 名	131 名																																							

	3回目実施者数	153名	130名	203名	147名

第2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 業務運営体制の構築

(1) 業務運営体制の構築

中期目標

地方独立行政法人制度の特長をいかし、独立した経営体として、主体性をもって意思決定し、迅速に行動できるよう、理事会を中心とした体制を整備するとともに、職員の病院運営に対する意識の醸成を図るなど自律性を発揮できる効果的な運営体制の構築を図ること。

中期計画

地方独立行政法人制度の特長をいかし構築された独立した経営体として、理事長による最高責任者としてのリーダーシップのもと、より一層迅速な意思決定と効率的な運営体制を強化する。それにより、医療情勢の変化や患者ニーズ、各病院の特性や実情に応じた機動性の高い業務改善を図る。加えて、役員による職務執行と内部統制のもと、業務の適正を確保するための体制を構築していく。

また、市立総合医療センター全体としては、長期的な視点を踏まえ、柔軟かつ一体的な運営管理を行う。

年度評価 結果推移

平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
B	B		

実績見込

複雑化する患者サービスに横断的かつ効率的に対応するため、入退院管理センターと医事課を統合して入退院管理支援センターとして発足させたことや、各課・室と事務長間で密接な連携が行えるようにしたことで、業務の効率化と部署間のコミュニケーションの円滑化を図ることができ、効果的かつ統一のある病院運営を行うことができるようになった。

また、市民病院に所属していた人事課と財務課を法人本部に移管し、法人全体の経営戦略等を検討する経営戦略会議や、法人全体の経営に係るデータ分析・検証等を行う経営推進室を新設するなどの組織改編により本部機能が強化し、法人全体における課題を組織で検討・対応できるようになった。

病床管理に関わる責任者が参加する会議の開催日の見直し、病床情報（入院予測や病病連携先の空床状況など）をポータルサイトに掲載することで病床管理の円滑化を図り、病床稼働率を意識することが可能となった。また、法人や病院の運営に関する懸案事項につ

いて定期的に協議・検討を行い、運営方針の決定を行っている戦略会議や幹部会議に関する報告書を毎会議後ポータルサイトに掲載することで、病院経営に関する職員の認識や意識の共有を行うことができた。

市民病院においては、「断らない救急検討ワーキングチーム」「発熱専門外来センターワーキングチーム」など各種ワーキングチームを設立し、多職種で検討を行い、機動的に医療情勢の変化や患者ニーズに応じた業務改善を図ることができた。また、新型コロナへの対応では、救急・教育・災害を柱とし、市民の期待に応えることのできる真の急性期病院を目指すことを念頭に、新型コロナと一般診療との両立、また、その先のコロナ禍収束後の状況も見据えた重症対応看護師の育成や、急性期医療に対応できる病棟再編の検討に取り組んだ。

(2) 多様な人材の確保

中期目標	<p>医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努めること。</p> <p>ア 医師の人材確保 市立病院において提供する医療水準を向上させるため、優秀な医師の確保に努めるとともに、臨床研修医及び後期研修医を育成すること。</p> <p>イ 看護師及び医療技術職員の人材確保 関係教育機関等との連携を強化し、優れた看護師及び医療技術職員の確保に努めること。</p> <p>ウ 事務職員の人材確保及び育成強化 病院運営に関する専門知識や経営感覚が求められることから、必要な人材を確保・育成し、組織としての専門性を高めること。</p> <p>エ 育児支援等による人材確保 育児と業務の両立支援など多様な人材を活用できる体制を確保すること。</p>
------	--

中期計画	<p>医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努める。そのために、地方独立行政法人の特長をいかした職員採用を進め、優秀な人材を適宜確保する。加えて、法人が担うべき医療を提供するための人員を長期的に確保するため、職員の定着に努める。</p> <p>医療従事者については、大学等関係教育機関との連携や採用のための広報活動をこれまで以上に強化するとともに、初期臨床研修医の確保と育成に取り組む。さらに、新内科専門医制度の基幹病院として後期研修医の確保と育成に努める。</p> <p>事務職員については、病院経営に関する知識、経験を有する人材を計画的に採用するとともに、長期的な観点から新卒者の採用と育成に努める。</p> <p>また、育児支援や職場復帰に関わる制度など職員が働きやすく復帰しやすい環境を整える</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成 30 年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和 2 年度</td> <td style="text-align: center;">令和 3 年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	A	A		
平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度						
A	A								

初期研修のマッチングについては、フルマッチを続けている。看護師については新型コロナ拡大の影響により、令和2年度は応募者数が減少したものの常時定員以上の応募があり、安定した採用ができています。その他の職種についても必要に応じた採用ができており、計画以上の人材確保となっている。また育児支援制度の活用についても女性職員の取得率100%を維持できているとともに、男性職員も育児休業を取得するなど活用されている。

実績見込

【採用者数】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	平成28年度実績
初期研修医マッチング	10名	12名	10名	7名
後期研修医	10名	18名	14名	9名
看護師	33名	29名	33名	49名
医療技術員	7名	11名	9名	21名
事務職員	2名	2名	8名	3名
定年退職者の再雇用	7名	4名	7名	4名

(3) 外部評価等の活用

中期目標	病院機能評価等の評価項目に基づき業務運営の改善に努めるとともに、実効性の高い監査を実施し、監査結果に基づき必要な見直しを行うこと。
------	---

中期計画	<p>平成26年度に実施した公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価結果に基づき、本中期計画期間中実施する病院機能評価（せのお病院：平成30年度実施、市民病院：令和元年度実施）までに指摘箇所の改善完了に向けて取り組む。当該病院機能評価実施後は新たな指摘事項への業務運営改善に努める。</p> <p>業務部分、経営部分の評価、見直しについては、医療の質に関する客観的な指標の分析や外部の評価機関による評価結果の分析、活用により、継続的な医療の質向上を図るとともに、監事や会計監査人による監査結果等に従い、より一層の内部統制の強化を図る。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">平成30年度</td> <td style="text-align: center;">令和元年度</td> <td style="text-align: center;">令和2年度</td> <td style="text-align: center;">令和3年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B		
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B								

実績見込	<p>公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価の次回受審までに、業務改善を進めていく。</p> <p>会計面においては、監事や会計監査法人による会計監査と必要に応じた相談・助言や理事会での助言等を受け、引き続き経営強化に努めた。</p> <p>監事による業務監査においては、諸規程、議事録、契約関係、訴訟・係争事件関係、各種ハラスメント・内部通報関係事案、役員・職員の非違行為・懲戒事案についての確認を受けて改善に努めた。また、必要に応じた顧問弁護士への相談等、内部統制の強化を図った。</p>
------	--

2 職員のやりがいと満足度の向上

(1) 研修制度の充実及び資格取得への支援

中期目標	医学の進歩による医療の高度化・専門化に対応して、常に高度かつ標準化した医療を提供できるよう、専門性及び医療技術の向上を図るため、医療スタッフの研修や資格取得支援等を充実すること。
------	---

中期計画	専門性の向上に向けた研修制度の充実に加えて、職員の資格取得を奨励する制度を充実する。また、臨床研修指導医、専門医、認定医、認定看護師及び認定薬剤師等の資格取得を促進するとともに資格保持者の資格維持のための支援体制を整え、質の高い医療の提供体制を構築する。さらに、新内科専門医制度の開始に伴い、基幹病院としての体制を充実させる。
------	---

目標指標の推移

《目標値》

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
臨床研修指導医数	53人	51人	51人	40人	40人	48人

《関連指標》

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	平成28年度実績
臨床研修指導医割合	67.1%	65.8%	66.2%	70.5%
専門医	142人	144人	161人	123人
認定医	66人	65人	101人	61人
認定看護師数	9分野 12人	11分野 15人	11分野 15人	9分野 12人
認定薬剤師数	8人	8人	8人	5人

年度評価 結果推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	A	A		

実績見込	<p>臨床研修指導医は安定して目標を上回っており、認定看護師についても奨学金制度の新設などにより着実に増加している。</p> <p>また新専門医制度が開始された中で当院プログラムでの専攻医も安定して確保できており、専門医の充実も図られている。内科専門研修で必須となっている内科救急講習会（JMECC）についても毎年当院で継続的に開催ができており、内科専門研修プログラム基幹病院としての役割を十分に果たすことができている。</p>
-------------	--

(2) 適正な人事評価制度

中期目標	医療組織に適した職員の業績や能力、経験や職責などを反映した公正かつ適正な人事評価により職員のモチベーションを高めるように努めること。
------	--

中期計画	<p>平成28年10月から導入した新人事評価制度により、目標に対する成果を評価する業績評価、職務行動を評価する能力評価を引き続き実施し、職員の能力開発と人材育成を図っていく。また、評価者と被評価者が面談を行うことで法人の方向性を職員に伝達し、職員自らの組織内での役割を再確認させることで組織の活性化を図る。</p> <p>本中期計画期間においては、この制度を適切に運用していくとともに、実施した上での問題点や課題を抽出し、適宜見直しを行う。</p>
------	--

年度評価 結果推移	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>平成30年度</td> <td>令和元年度</td> <td>令和2年度</td> <td>令和3年度</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B		
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B								

実績見込	医療組織に即した新人事評価制度の浸透を図るため、職務行動を評価する能力評価に特化して行った。その結果として職員の理解も深まり新人事評価制度への移行がスムーズにできた。毎年、運用方法について精査し、効率的に制度が運用されるようマニュアル・様式の改定等を行っている。
------	---

(3) 職場環境の整備

中期目標

職員のワークライフバランスや職場の安全確保、コミュニケーションの活性化などを通じて職場環境の改善を図り、働きやすく働きがいのある病院づくりに努めること。

中期計画

職員が業務に専念できる職場環境の整備に向けて、働き方改革、院内保育のさらなる充実等職員満足度の向上を目指す。

働き方改革として、業務体制の調査、見直しを行い、作業量削減に向けてタスクシフト等の仕組みを検討し、より効率的な体制への改善を図る。特に医師については、当直体制や過重労働等を中心に問題点を抽出し改善に努める。看護職員については、夜勤回数の増大を防ぐための体制を構築し、全看護職員の負担軽減ができるような協力体制を整備する。

院内保育については、保育児童数が大幅に増加していることを踏まえ、万一定員超えになった場合にも対応できるような保育体制を実現させる。さらに、夜間保育についても需要に合わせて実施するなど、育児休業からの早期復帰をサポートしていく。

年度評価 結果推移

平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
B	B		

実績見込

医師については勤務時間の短縮や宿日直体制の整備を行い、働き方改革に向けた体制がある程度整えられた。安全衛生管理室を設立し、職員の安全衛生やハラスメント対策を強化した。看護師の夜勤の平準化についても子育て世代の夜勤可能な職員への協力を求めるなど協力体制を強化するなど、第 2 期中期計画を順調に実施した。

院内保育園は、平成 30 年度まで増加傾向にあったものの、家庭で保育する産休・育休職員の増加や認可保育園への転園等により、令和 3 年 3 月末の月極児童数は 14 名となっている。一方で、一時保育の利用は増加しており、職員が業務に専念できるよう、委託業者と協力して柔軟な利用が可能となるよう要望に応じてきた。また今後、定員を超える場合でも育児休業から職員が安心して職場復帰できるよう、病院周辺の保育施設と提携し、育児と仕事の両立を支援できる保育環境の整備を行った。

【平均利用者数（1日当たり）】

区分	平成30年度実績		令和元年度実績		令和2年度実績	
	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
院内保育	22.7	2.2	21.2	0.2	14.0	0.3
病児保育	0.4	—	0.4	—	0.2	—
夜間保育	0	—	0	—	0	—

平成28年度実績	
平日	土日祝
20.2	3.7
—	—
—	—

※病児保育は平成30年7月23日から開始（平日のみ）。

※夜間保育は平成31年3月1日から開始（金曜日のみ）。

第3 財務内容の改善に関する事項

1 持続可能な経営基盤の確立

中期目標	<p>経営の効率化や健全化に向けた取組をさらに進め、中期目標期間中の経常収支の黒字を達成するとともに、市立病院の役割を果たせる持続可能な経営基盤を確立すること。</p> <p>特に、施設の改築更新、医療機器の導入・更新等ハード面の整備については、中長期的な視点で計画的に実施すること。</p> <p>なお、救急、感染症など公的に必要とされる医療を安定的に提供していくため、地方独立行政法人の性質上能率的な経営を行ってもなおその事業の経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費等については、市の一般会計から運営費負担金として支出することとするが、これについては、市民に分かりやすいように内訳や考え方を明らかにした上で適切に中期計画へ反映すること。</p>
------	---

中期計画	<p>市民病院としての役割を果たすとともに、増収対策及び費用の合理化により、安定した経営基盤を確立し、より自立した経営を目指す。</p> <p>医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特長をいかし、社会情勢の変化に機敏に対応した病院経営を行うことにより、安定的な経常収支の黒字化を目指すとともに、資金収支の維持を図る。</p>
------	--

目標指標の推移

《目標値》 岡山市立総合医療センター

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
経常収支比率	98.9%	100.1%	107.7%	96.9%	100.9%	97.9%

※実績見込と中期計画目標値が異なる

年度評価 結果推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	B	B		

実績見込

計画期間前半は順調に経営改善を行ってきたが、令和2年度は、ベッドコントロールの改善により平均在院日数が短縮し、年度目標を達成した。その影響もあって前年度比で入院単価は増加しており、今後はこの単価を維持したうえで患者数を元の水準まで戻すことにより増収を図る。

DPC係数を上げるため、悪性腫瘍手術件数の増加を目指したが、令和2年度からの新型コロナウイルスの影響により、悪性腫瘍手術累計件数は減少となり、化学療法の件数も減少しており、要件を満たすことができなかった。分娩件数については、要件を満たすことができた。

新型コロナウイルスの蔓延により、医療を取り巻く環境の変化はめまぐるしく、現在も厳しい状態が続いている。新型コロナウイルス患者の受入れを積極的に行いながら、同時にできるだけ多くの救急患者を受け入れできるよう、流動的に病床運用を行った。

【市民病院】

項目	平成 30年度 実績	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	平成 28年度 実績
新入院患者数	9,536名	10,147名	8,135名	10,500名 以上	9,066名
入院・外来手術 料合計（麻酔関 連を除く）	1,647,777 千円	1,690,127 千円	1,453,416 千円	17億円 以上	1,465,803 千円

2 収入の確保及び費用の節減

中期目標	効率的な病床利用や高度医療機器の稼働率向上に努め、社会情勢の変化や医療保険制度の変革への的確な対応などにより収入を確保するとともに、給与費比率の適正化や診療材料などの調達コストの削減など、費用の節減及び合理化を図ること。
------	--

中期計画	<p>各部門が収益目標を持ち、目標達成のための取組の進捗状況を管理・評価する目標管理制度の導入、DPCによる診療情報の分析等経営管理手法の積極的な活用により、適正な収益の確保を図る。</p> <p>また、病棟ごとの病床稼働率や平均在院日数の適正水準の維持を前提に、適正なコストでの運営に向け、給与費比率の適正化に努めるとともに、診療材料などの調達方法において新たな仕組みを確立するなどの改善により、費用の節減及び合理化を図る。</p>
------	---

目標指標の推移

《目標値》 【市民病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
病床稼働率 ※1	98.1%	96.9%	73.7% (79.0%)	88.3%	94.6%	88.6%
平均在院日数	13.6日	13.0日	12.0日	12.7日	12.7日	12.9日
経常収支比率 ※2	99.4%	100.9%	108.6%	97.0%	101.2%	97.8%
医業収支比率	92.6%	94.6%	86.8%	94.0%	98.0%	89.6%
給与費比率 ※2	56.8%	54.7%	61.5%	58.2%	54.8%	57.9%

《目標値》 【せのお病院】

項目	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	第2期中期計画目標	平成28年度実績
病床稼働率 ※1	一般病床 ※3	—	—	—	94.0%	67.3%
	地域包括ケア病床	83.0%	88.5%	86.6%	94.0%	72.9%
平均在院日数	一般病床 ※3	—	—	—	17.0日	17.7日
在院日数	地域包括ケア病床	30.7日	34.8日	36.7日	60.0日 以内※4	29.7日
経常収支比率	104.8%	111.4%	115.7%	110.8%	110.8%	111.0%
医業収支比率	80.1%	87.3%	90.6%	86.0%	86.0%	83.7%

給与費比率	86.0%	78.7%	75.4%	76.3%	76.3%	83.4%
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

※1 病床稼働率＝（在院患者延べ数＋退院患者数）×100／（届出病床数×日数）在院患者延べ数とは24時現在に入院中の患者の延べ数
 病床稼働率欄の（）内は、新型コロナ対応病床（感染対策工事による休床分を含む）を除いて計算。

※2 法人本部に係る費用（一般管理費）を除く。なお、令和元年度から人事課及び財務課が、市民病院から法人本部へ所管替えとなっている。

※3 せのお病院の一般病床は、平成30年5月から全て地域包括ケア病床に転換している。

※4 地域包括ケア病床に求められる診療報酬の施設基準とする。（平成29年度時点の基準は60日以内）

※市民病院、せのお病院ともに、実績見込と中期計画目標値が異なる

年度評価 結果推移	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	C	B		

実績見込	<p>病床稼働率については、計画期間前半は、順調に上がってきていたが、令和2年度からは新型コロナの影響により、年間を通して低下している。新型コロナ病床確保のため、病床（病棟）閉鎖を行ったこともあり、病床稼働率の大幅な低下により医業収益は減少した。ただし、入院・外来とも単価は上昇している。</p> <p>費用について、給与費比率は、医業収益が大きく落ち込んだことで、目標を達成できなかった。病床稼働率の低下により変動費である材料費は減少しているが、別途、契約内容・方法等を見直しすることで更に削減した。経費については、各種感染対策を講じたため増加した。</p> <p>支払いが困難な患者に対して、早期に限度額認定証、貸付制度、生活保護などの説明及び代行手続きを行い、患者負担を最小限にすることで、未収金の発生を未然に防止した。</p> <p>発生した未収金については、患者及び連帯保証人や家族などに対し定期的な催促を行った。悪質な未収金患者に対しては、平成28年度から弁護士による債権回収委託を活用し、回収を行った。</p> <p>委託した弁護士から回収不能として返還された債権について内容を精査し、15名に対して訴訟手続き（支払督促）を行い、2名は分割払いとなり、5名は完納となった。</p>
------	---

第4 その他業務運営に関する重要事項

1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献

中期目標	市民病院の隣接地に導入予定の健康・医療・福祉系施設と協力し、市の推進する健康・医療・福祉を核としたまちづくりへ貢献すること。								
中期計画	市民病院の隣接地に導入予定の健康・医療・福祉系施設において、市民への健康講座の開催や、当該施設の機能が市民の健康維持・向上につながる効果的なものとなるよう施設事業者等との連携を図るなど、市の推進する健康・医療・福祉を核としたまちづくりへ貢献する。								
年度評価 結果推移	<table border="1"><thead><tr><th>平成30年度</th><th>令和元年度</th><th>令和2年度</th><th>令和3年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>B</td><td>B</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	B	B		
平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度						
B	B								
実績見込	新型コロナ拡大はまだ継続することが想定されるため、市民健康講座等の大人数での開催は回避し、岡山市と協議・協力のうえ、Webを活用したリモート開催等を積極的に進めていくこととした。								

5. 予算、収支計画及び資金計画における決算状況

第2期中期計画(平成30年度～令和3年度)予算・収支計画・資金計画における決算状況

※ ただし、実績値については、平成30年度から令和2年度実績に、令和3年度年実績見込を足している。

1 予算

(単位:百万円)

区分	中期計画	実績	増減 (実績－中期計画)
収入	57,631	58,795	1,164
営業収益	53,945	55,998	2,053
医業収益	48,912	48,518	△ 394
運営費負担金収益	4,792	6,944	2,152
その他営業収益	241	536	295
営業外収益	865	622	△ 243
運営費負担金収益	332	320	△ 12
その他営業外収益	533	302	△ 231
臨時利益	0	0	0
資本収入	2,821	2,175	△ 646
長期借入金	2,821	1,601	△ 1,220
運営費負担金収入	0	0	0
その他資本収入	0	574	574
その他収入	0	0	0
支出	56,863	57,931	1,068
営業費用	48,723	50,410	1,687
医業費用	48,200	49,724	1,524
給与費	27,677	28,405	728
材料費	11,353	12,256	903
経費	8,967	8,913	△ 54
研究研修費	203	150	△ 53
一般管理費	523	686	163
営業外費用	726	752	26
臨時損失	0	93	93
資本支出	7,414	6,676	△ 738
建設改良費	3,067	2,454	△ 613
償還金	4,347	4,215	△ 132
その他資本支出	0	7	7
その他支出	0	0	0
収支(収入－支出)	768	864	96

2 収支計画

(単位:百万円)

区分	中期計画	実績	増減 (実績-中期計画)
収入の部	54,948	56,818	1,870
営業収益	54,132	56,215	2,083
医業収益	48,725	48,338	△ 387
運営費負担金収益	3,464	5,649	2,185
資産見返運営費負担金戻入	1,545	1,459	△ 86
資産見返受贈額戻入	178	274	96
その他営業収益	220	495	275
営業外収益	816	603	△ 213
運営費負担金収益	332	320	△ 12
その他営業外収益	484	283	△ 201
臨時利益	0	0	0
支出の部	55,156	56,423	1,267
営業費用	52,347	53,400	1,053
医業費用	51,839	52,717	878
給与費	28,071	28,554	483
材料費	10,367	11,209	842
経費	8,100	8,040	△ 60
減価償却費	5,110	4,773	△ 337
研究研修費	191	141	△ 50
一般管理費	508	683	175
営業外費用	2,809	2,927	118
臨時損失	0	96	96
純利益	△ 208	395	603
目的積立金取崩額	0	0	0
総利益	△ 208	395	603

3 資金計画

(単位:百万円)

区分	中期計画	実績	増減 (実績－中期計画)
資金収入	61,708	69,369	7,661
業務活動による収入	53,482	55,211	1,729
診療業務による収入	48,912	48,211	△ 701
運営費負担金による収入	3,796	6,207	2,411
その他業務活動による収入	774	793	19
投資活動による収入	1,328	8,130	6,802
運営費負担金による収入	1,328	1,630	302
その他投資活動による収入	0	6,500	6,500
財務活動による収入	2,821	1,601	△ 1,220
長期借入金による収入	2,821	1,601	△ 1,220
その他財務活動による収入	0	0	0
前期中期計画からの繰越金	4,077	4,427	350
資金支出	61,708	69,369	7,661
業務活動による支出	49,449	51,048	1,599
給与費支出	28,033	29,110	1,077
材料費支出	11,353	11,591	238
その他業務活動による支出	10,063	10,347	284
投資活動による支出	3,067	11,984	8,917
有形固定資産の取得による支出	3,067	2,298	△ 769
その他投資活動による支出	0	9,686	9,686
財務活動による支出	4,347	4,217	△ 130
長期借入の返済による支出	3,313	3,194	△ 119
移行前地方債償還債務の償還による支出	1,034	1,021	△ 13
その他財務活動による支出	0	2	2
翌年度への繰越金	4,845	2,120	△ 2,725

※ R3年度に、20億円がR2年度預入れの定期が満期解約となったため、「その他投資活動による収入」に計上、30億円を定期預金に預け入れたため、「その他投資活動による支出」に計上している。

6. 主な目標値の達成状況

項番	区分		市民病院						
			平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	中期計画		
第1	1-(1)	救急患者数		29,966人	28,263人	21,640人	26,000人	26,000人	
		救急要請応需率 (救急車搬送受入率)		94.7%	91.8%	85.8%	90.0%	90.0%	
		手術件数		4,635件	4,716件	4,131件	4,500件	4,500件	
	2-(1)	ア 医療安全研修		20回	18回	3回	2回	—	
	2-(1)	イ 院内感染対策委員会開催数		12回	12回	12回	12回	—	
	2-(1)	ウ	個人情報	全職員対象の研修	3回	0回(※1)	0回(※1)	3回	—
			保護研修	新任職員研修	7回	7回	4回	6回	—
	2-(2)	スキルアップ研修(全職員対象)		16回	22回	6回	24回	24回	
		病棟カンファレンス	入院時カンファレンス	7,184回	5,628回	4,627回	5,500回	5,500回	
			その他カンファレンス	1,571回	1,439回	1,603回	1,800回	1,800回	
	2-(3)	イ		クリニカルパス種類数	239	273	250	260	145
				クリニカルパス利用率	44.7%	54.8%	56.0%	55.0%	—
				クリニカルパス大会	5回	4回	4回	5回	—
				クリニカルパス開発支援会議 ※2	12回	12回	12回	12回	—
	2-(4)	治験	(継続)	16件	18件	21件	—	—	
			(新規)	7件	8件	4件	10件	—	
		新薬販売後調査	(継続)	60件	65件	35件	—	—	
			(新規)	16件	18件	15件	20件	—	
		臨床試験		46件	63件	33件	10件	—	
	3-(1)	イ		薬剤管理指導件数 (薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ,退院)	16,553件	16,278件	15,468件	14,000件	—
				無菌製剤処理料件数(ⅠⅡ)	3,843件	4,117件	3,894件	3,600件	—
				外来化学療法加算数(Ⅰ)	1,179件	1,518件	1,439件	1,100件	—

項番	区分	市民病院					中期計画	
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込			
第2		各種栄養指導合計件数		1,823件	1,704件	1,326件	1,380件	—
		入院患者食事相談件数		332件	414件	474件	450件	—
	3-(1)ウ	患者満足度調査結果 (満足+やや満足)	入院	92.8%	94.7%	97.8%	95.0%	95.0%
			外来	92.0%	95.2%	97.9%	80.0%	80.0%
	4-(1)	紹介率 ※3		63.3%	66.0%	70.0%	50.0%	50.0%
		逆紹介率 ※4		96.4%	90.7%	95.7%	70.0%	70.0%
		地域連携クリティカルパス適用件数		267件	370件	379件	260件	260件
		紹介患者予約件数		7,066件	7,609件	4,254件	8,000件	—
		うちカルナコネクトによる予約 (紹介患者受診予約システム)		1,704件	1,902件	1,584件	2,000件	—
	4-(2)	在宅復帰率		91.2%	91.2%	89.2%	80.0%	80.0%
		退院前カンファレンスの開催		781件	742件	173件	700件	700件
		医療機器共同利用 件数	CT	490件	540件	393件	520件	—
			MRI	682件	673件	525件	700件	—
	5-(1)	大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率		100%	100%	100%	100%	100%
		研修医・医学生への研修会実施回数		30回	12回	12回	12回	12回
		研修医が参加するカンファレンスの回数		103回	91回	44回	80回	80回
	6-(1)	地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス		5回	5回	7回	6回	—
6-(2)	栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数		2回	2回	0回	1回	—	
第2	2-(1)	臨床研修指導医数		53人	51人	51人	40人	40人
第3	1	経常収支比率 ※5		98.9%	100.1%	107.7%	96.9%	100.9%
		新入院患者数		9,536名	10,147名	8,135名	10,500名以上	—
		入院・外来手術料合計 (麻酔関連を除く)		1,647,777千円	1,690,127千円	1,453,416千円	17億円以上	—
	2	病床稼働率 ※6		98.1%	96.9%	73.7% (79.0%)	88.3%	94.6%

項番	区分	市民病院				
		平成30 年度実績	令和元 年度実績	令和2 年度実績	令和3年度 実績見込	中期計画
	平均在院日数	13.6日	13.0日	12.0日	12.7日	12.7日
	経常収支比率 ※7	99.4%	100.9%	108.6%	97.0%	101.2%
	医業収支比率	92.6%	94.6%	86.8%	94.0%	98.0%
	給与費比率 ※7	56.8%	54.7%	61.5%	58.2%	54.8%

※1 新型コロナ流行に鑑み、代替としてポータルサイトに資料を掲載して周知した。

※2 令和元年度に「クリニカルパス委員会」から「クリニカルパス開発支援会議」へ名称変更。

※3 紹介率 = (紹介患者数/初診患者数) × 100

※4 逆紹介率 = (逆紹介患者数/初診患者数) × 100

※5 岡山市立総合医療センターとしての目標値

※6 病床稼働率 = (在院患者延べ数 + 退院患者数) × 100 / (届出病床数 × 日数)

在院患者延べ数とは24時現在に入院中の患者の延べ数

病床稼働率欄の()内は、新型コロナ対応病床(感染対策工事による休床分を含む)を除いて計算。

※7 法人本部に係る費用(一般管理費)を除く。なお、令和元年度から人事課及び財務課が、市民病院から法人本部へ所管替えとなっている。

※ 令和3年度実績見込欄について 令和3年度年度計画目標値を記載。

※ 中期計画欄について 第2期中期計画の目標値を記載。ないものは空欄とした。

項番	区分	せのお病院						
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績見込	中期計画		
第1	1-(2)ア	紹介率 ※1	49.6%	55.7%	78.9%	40.0%	40.0%	
		逆紹介率 ※2	60.7%	58.8%	95.8%	57.0%	57.0%	
		病棟カンファレンス	717回	744回	1,088回	380回	380回	
	1-(2)エ	地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回	4回	0回	4回	4回	
	4-(1)	紹介率 ※1 (再掲)	49.6%	55.7%	78.9%	40.0%	40.0%	
		逆紹介率 ※2 (再掲)	60.7%	58.8%	95.8%	57.0%	57.0%	
第3	2	病床稼働率 ※3	一般病床 ※4	35.0%	—	—	—	94.0%
			地域包括ケア病床	83.0%	88.5%	86.6%	94.0%	94.0%
	平均在院日数	一般病床 ※4	7.1日	—	—	—	17.0日	
		地域包括ケア病床	30.7日	34.8日	36.7日	60.0日以内	60.0日以内 ※5	
	経常収支比率		104.8%	111.4%	115.7%	110.8%	110.8%	
	医業収支比率		80.1%	87.3%	90.6%	86.0%	86.0%	
	給与費比率		86.0%	78.7%	75.4%	76.3%	76.3%	

※1 紹介率 = (紹介患者数/初診患者数) × 100

※2 逆紹介率 = (逆紹介患者数/初診患者数) × 100

※3 病床稼働率 = (在院患者延べ数 + 退院患者数) × 100 / (届出病床数 × 日数)

在院患者延べ数とは24時現在に入院中の患者の延べ数

※4 せのお病院の一般病床は、平成30年5月から全て地域包括ケア病床に転換している。

※5 地域包括ケア病床に求められる診療報酬の施設基準とする (平成29年度時点の基準は60日以内)。

※令和3年度実績見込欄について 令和3年度年度計画目標値を記載。

※中期計画欄について 第2期中期計画の目標値を記載。ないものは空欄とした。